

「北川村モネの庭マルモッタン」を中核とした文化観光拠点計画

目次

1. 実施体制	1
2. 事務の実施体制	3
3. 基本的な方針	4
3-1. 現状分析	4
3-1-1. 主要な文化資源	4
3-1-2. 来訪客の動向	8
3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較	11
3-2. 課題	13
3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	15
3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	19
3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	19
4. 目標	21
5. 目標の達成状況の評価	27
6. 文化資源保存活用施設	28
6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	28
6-1-1. 現状の取組	28
6-1-2. 本計画における取組	28
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	29
6-2-1. 現状の取組	29
6-2-2. 本計画における取組	29
6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	30
6-3-1. 現状の取組	30
6-3-2. 本計画における取組	30
7. 文化観光拠点施設機能強化事業	32
7-1. 事業の内容	32
7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業	32
7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他国内外からの 観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業	38
7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の 利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	40
7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業	43
7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	43
7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業	45
7-2. 特別の措置に関する事項	47
7-2-1. 必要とする特例措置の内容	47
7-3. 必要な資金の額及び調達方法	48
8. 計画期間	50

「北川村モネの庭マルモッタン」を中核とした文化観光拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	北川村モネの庭マルモッ タン	所在地	高知県安芸郡北川村野友甲 1100
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	北川村	所在地	高知県安芸郡北川村野友甲 1530
	代表者	村長 上村 誠		
	地方公共 団体内部 の役割	産業政策課（産業振興、文化振興、観光振興）		
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	株式会社きたがわジャル ダン	所在地	高知県安芸郡北川村野友甲 1100
	代表者	代表取締役社長 和田 昌敏		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人北川村文化 観光公社	所在地	高知県安芸郡北川村野友甲 1554-1
	代表者	代表理事 和田 昌敏		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人高知県東部 観光協議会	所在地	高知県安芸市土居 82-1
	代表者	代表理事 横山 幾夫		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 1 号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	中芸のゆずと森林鉄道日 本遺産協議会	所在地	高知県安芸郡安田町大字安田 1850
	代表者	会長 黒岩 之浩		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

共同申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	土佐くろしお鉄道株式会 社	所在地	本社：高知県四万十市駅前町7番1号 安芸事務所：高知県安芸市東浜300-4
	代表者	代表取締役社長 山脇 深		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

【申請者：施設設置者】北川村

文化資源保存活用施設の設置者として、計画・事業の全体調整、事業の進捗管理、計画に基づく事業のうち施設・設備の整備に関する事業（主にハード系事業）を行う。事業の実施にあたっては、文化資源保存活用施設の指定管理者である株式会社きたがわジャルダンを中心として、他の文化観光推進事業者とも連携して進めていく。

【共同申請者：指定管理者】株式会社きたがわジャルダン

文化資源保存活用施設の管理運営を担う指定管理者として、計画に基づく事業のうち、北川村が行う事業以外の事業（主にソフト系事業）を行う。事業の実施にあたっては、文化資源保存活用施設の設置者である北川村を中心として、他の文化観光推進事業者とも連携して進めていく。

【共同申請者】一般社団法人北川村文化観光公社

北川村の文化振興と観光振興の両面を担う組織として、村内の文化・観光動向を把握・分析し、文化資源保存活用施設の設置者・指定管理者や文化観光推進事業者が効果的に事業を実施することができるよう事業への協力・助言を行う。また、文化資源保存活用施設の指定管理者と連携して、北川村文化観光公社の WEB サイトでの文化資源保存活用施設の発信強化と村内周遊につなげるための情報発信、村内の文化観光施設との連携強化による周遊企画の実施、PR 活動を行い、観光客の誘客と村内での周遊を促す。

【共同申請者】一般社団法人高知県東部観光協議会（地域連携 DMO）

北川村も所在する高知県東部地域全体の観光振興を担う地域連携 DMO として、県東部地域の観光動向を把握・分析し、文化資源保存活用施設の設置者・指定管理者や文化観光推進事業者が効果的に事業を実施することができるよう事業への協力・助言を行う。また、文化資源保存活用施設の指定管理者と連携して情報発信やPR活動を行い、観光客の誘客と県東部エリアでの周遊を促す。

【共同申請者】中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会

北川村特産のゆずや、国指定重要文化財である旧魚梁瀬森林鉄道施設、郷土の偉人・中岡慎太郎に関連する施設等が構成文化財となっている、県中芸地域 5 町村の文化観光を担う協議会として、文化資源保存活用施設の指定管理者と連携した情報発信やPR活動を行い、相互の文化資源、観光資源への誘客と周遊を促す。

【共同申請者】土佐くろしお鉄道株式会社

高知県東部地域の住民の基幹生活路線であり、産業、経済、文化、観光の振興にも寄与する路線としての役割も持つ鉄道事業者として、文化観光資源保存活用施設への誘客や、県東部地域での周遊を促すための旅行企画やPRを行う。

3. 基本的な方針

3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

1 北川村モネの庭マルモッタン（文化観光拠点施設）の概要

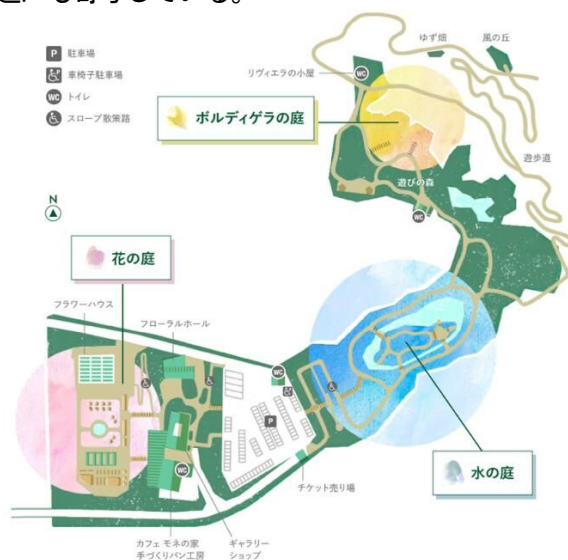
世界中で高い人気を誇る印象派の画家モネが愛した庭として有名なフランス・ジヴェルニーにある「クロード・モネの家と庭 (Maison et jardins Claude Monet - Giverny)」(以下、「本家ジヴェルニーのモネの庭」)。モネは43歳から生涯の半分以上をこの庭とアトリエのある邸宅で過ごすなか創作以外の時間を庭仕事に充てており、絵画作品だけでなくモネが作り上げた庭もまた彼の作品の一つだといわれている。そうしたモネが情熱を傾けて作り上げた庭を高知の自然の中に再現したのが「北川村モネの庭マルモッタン (Jardin de Monet Marmottan au Village de Kitagawa)」であり、この庭はフランス芸術アカデミー (Académie des Beaux-Arts) より世界で唯一「モネの庭」の名称を掲げることを公式に許されている。

「北川村モネの庭マルモッタン」は、モネが追及した光と影の調和を大切にしつつ、フランス・ジヴェルニーとは異なる気象条件の中で、モネの精神をどう表現するかに焦点を当てている。モネはこぼれ種で咲いた花や、気に入れば野の花も花壇に植えており、花壇の造りは花ありきではなく色彩に重点を置いているため、「北川村モネの庭マルモッタン」でも「本家ジヴェルニーのモネの庭」と同じ色彩を保ちながら、高知の気候を活かした光と植物でモネの世界観を表現している。

この「北川村モネの庭マルモッタン」は、村おこしのプロジェクトから「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流により生まれ、現地の庭園管理責任者の監修のもと2000年に開園した。開園に先立つ1999年には、フランス美術界最高機関であるフランス芸術アカデミーの終身書記でもあるマルモッタン・モネ美術館のアーノルド・ドートリヴ氏から「Jardin de Monet Marmottan au Village de Kitagawa (北川村モネの庭マルモッタン)」の名称をいただいている。開園以降、モネの精神が保たれているかを確認するため数年に一度、「本家ジヴェルニーのモネの庭」の庭園管理責任者が北川村を訪れるなどの交流を図り、モネの精神や世界観を北川村のオリジナリティーも加味しながら表現し続けており、2012年から「北川村モネの庭マルモッタン」の入園券の半券が「本家ジヴェルニーのモネの庭」の入園券として使えるようになったほか、2015年には当時の庭園管理責任者がフランス政府芸術文化勲章シュヴァリエを受章、2018年には「北川村モネの庭マルモッタン」と「フランス芸術アカデミー」、「クロード・モネの家と庭」との交流協定を締結するなど日仏の文化交流促進にも寄与している。



＜本家ジヴェルニーのモネの庭との交流＞



＜園内マップ＞

①水の庭

19世紀後半、フランスをはじめヨーロッパ諸国では日本の文化が流行し、芸術においても日本美術が幅広い芸術作品に影響を及ぼしており、その動きはジャポニスム（日本趣味）と呼ばれた。モネもまた、絵画を描く時に浮世絵風の構図を用いるなどジャポニスムの影響を受けており、ジヴェルニーの庭づくりにおいても、日本風の太鼓橋や藤棚、柳、竹などを配置した日本を感じる「水の庭」を作り、そこでモネの絵画の中でも代表作となっている「睡蓮」の連作が生まれている。

「北川村モネの庭マルモッタン」の「水の庭」は、モネの代表作「睡蓮」が描かれた場所として知られている、モネが日本文化の影響を受けて作った「本家ジヴェルニーのモネの庭」の「水の庭」を再現している。ここでは「本家ジヴェルニーのモネの庭」から株分けされた睡蓮が4月下旬から10月にかけて開花し、モネの世界観を表現するために庭師が週に一度池に入り、睡蓮の葉を間引いて水の鏡を作っている。また、モネが屋外で咲かせたいと夢見た「青い睡蓮」は、フランス・ジヴェルニーでは気候の関係で咲かせることはできなかったが、温暖な北川村では7月頃から10月下旬頃まで美しい花を咲かせ、「北川村モネの庭マルモッタン」ではモネの夢を実現した景色が広がっている。



＜水の庭・太鼓橋＞

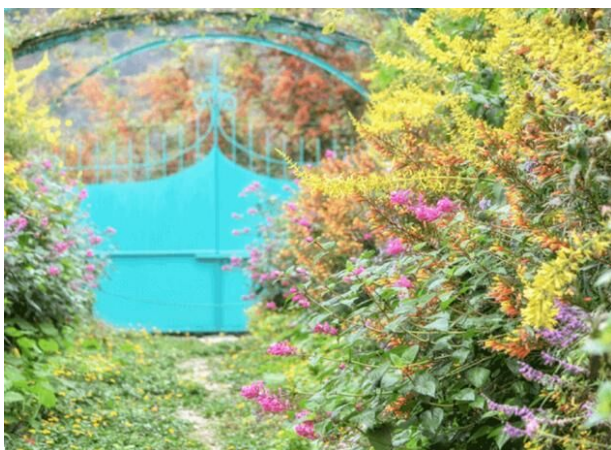


＜青い睡蓮＞

②花の庭

モネは1883年にジヴェルニーに移住すると「花の庭」の整備に乗り出し、スイセンやアイリス、シャクヤクを植え、長方形の整然とした区画の「絵の具箱の花壇」には、若き日のオランダ旅行中に目にしたチューリップ畑から着想を得たと思われるチューリップやグラジオラスなどが植えられている。また、「花の庭」中央を貫く直線状の散歩道にはバラのアーケードが整備されている。モネは絵画の制作と同じく庭作りにも注意を払い、花壇の手前には強い色を、奥には同色系の柔らかいものを配置したり、絵画の基本となる光の使い方を庭にも適用して青い花を木の下に植えて影の中で色を深めたり、赤やオレンジの花を西側に配置して日没の光で色彩を際立たせる効果を追求しており、モネにとって庭はキャンバスであり、花は絵の具のような存在であったといえる。

「北川村モネの庭マルモッタン」の「花の庭」は、画家のパレットのなかの色あわせを思わせるように季節の花たちが彩り、バラのアーチやノルマン囲いの造形と、花壇ごとに変化のある花の色や、混植の取り合わせが楽しめるようになっている。季節がいつも同じではないように、気候により変化する植物たちの取り合わせは、植物を愛したモネが作り上げた「本家ジヴェルニーのモネの庭」の「花の庭」と同様に、見るたびに新しい風景の感動を、訪れる人に与えている。



＜花の庭＞



＜モネとジヴェルニーの花の庭＞

③ボルディゲラの庭

モネは1883年にルノワールと南仏・地中海沿岸地方を旅し、翌年にも同地方に一人で訪れ北イタリアのボルディゲラに足を伸ばしている。地中海を目にしたモネは「これは非常に美しい。ダイヤモンドや宝石を描くようなものだ。」と友人への手紙に記したように、その光と色彩に魅了され、同地方で描いた30点以上の作品を残している。光による色彩に強い印象を受けたそれらの作品は、その後のモネの創作活動の重要なポイントにもなっている。

「北川村モネの庭マルモッタン」の「ボルディゲラの庭」は、「本家ジヴェルニーのモネの庭」の庭園管理責任者の発案で生まれた「本家ジヴェルニーのモネの庭」にもないオリジナルの庭で、モネの人生後半の絵画に大きな影響を与えた地中海の絵の世界観をモチーフに、北川村の起伏に富んだ地形を利用してヤシやオリーブなどの地中海付近の植栽と、ゆずやツツジなどの高知の植栽をあわせるユニークな庭造りを行っている。また、日本庭園の要素も盛り込み、海や山の佇まいも借景として、高知の自然のなかでモネが訪れた地中海の風景を作り上げ、地中海の光と色彩、モネが感動した景色を「ボルディゲラの庭」で表現している。

「ボルディゲラの庭」には、地中海のリヴィエラ地方の農場をイメージした赤い屋根の建物「リヴィエラの小屋」があり、モネがボルディゲラで描いた絵画（複製）も展示された小屋のテラスからは太平洋が一望でき、モネの作品の題材となったボルディゲラのような風景が楽しめる。また、ドリンクやスイーツを提供しているカフェも併設している。



＜ボルディゲラの庭＞



＜リヴィエラの小屋＞

④自然の森・遊びの森

「水の庭」と「ボルディゲラの庭」の間にある「自然の森」・「遊びの森」には、春は新緑、秋は紅葉が美しい並木や、高知の自然そのままの姿が息づく森の中を散策できる遊歩道などがあり、高台にある風の丘展望台からは北川村の山々や川、太平洋を見渡すことができる。

「自然の森」・「遊びの森」は、「水の庭」、「花の庭」、「ボルディゲラの庭」で、モネの作品世界を形作っている北川村の自然や植物に触れることのできるエリアとなっている。

⑤ギャラリー・ショップ

館内のギャラリースペース（展示・解説コーナー）には、モネの絵画（複製）や、ジヴェルニーでのモネの暮らしを伝える品等を展示している。

また、フランス・ジヴェルニーのほかモネなど印象派の画家ゆかりの地で日本画家の視線で描いた画集「印象派・ジャポニスムへの旅」の発表や、ジヴェルニー印象派美術館の招聘により展覧会を開催するなど国内外で活躍し、モネの作品との絶え間ない対話や芸術における日仏間の交流促進への貢献が高く評価されフランス政府芸術文化勲章シュヴァリエを受章している、21世紀を代表する日本画家の一人である平松礼二氏が、「北川村モネの庭マルモッタン」のために描いた作品3点も展示している。

ショップスペースでは、モネを中心としたミュージアムグッズやオリジナル商品をはじめ、ガーデニング雑貨、フランスにも輸出されている北川村特産のゆずを使った商品や地元のお酒などを豊富に取り揃えている。



＜ギャラリー＞



＜平松礼二「印象 北川村の池」＞

⑥フローラルホール

2011年にオープンした多目的ホールで、ギャラリーを兼ねた展示スペースになっている。水彩画を描くワークショップや「北川村モネの庭マルモッタン」の草花を使って作られたモネの庭をモチーフにした押し花アート作品展、アーティストがモネの庭や花々をイメージした作品を展示する展覧会などを開催している。

⑦カフェ

モネは庭づくりに情熱を傾けたばかりでなく、料理にも深い造詣を示し様々な創作料理を作ったほか、キッチンやダイニングなどのインテリアを自らコーディネートしたり、オリジナルの食器をデザインするなど、アートのある暮らしを実践していたと言われている。

カフェ「モネの家」では、地元食材を使ったメニューやモネのレシピを活かしたメニュー、デザート等季節折々の料理を提供しており、落ち着いた雰囲気店内と北川村の自然が一望できる景観の中でゆっくりと過ごしていただけ。

⑧フラワーハウス

「花の庭」に隣接するフラワーハウスの中では「モネの庭」を彩る花々の苗を育てている。当たり前のような毎日の水やりなどの作業も、いつも花いっぱいモネの世界観を表現した庭にお客様を迎える大切な作業となっている。また、フラワーハウスの直売所では、睡蓮をはじめ、モネの庭で育てた季節の花の苗や観葉植物を販売している。

その他、「北川村モネの庭マルモッタン」では環境問題についても取り組んでおり、庭作りにおいては雑草をすべて除去するのではなく、花壇の色合いに調和する場合は雑草の花をあえて残すなど植物の穏やかな生育と生物多様性の保全に努めている。また、極力、農薬などを使わず、人の力で病虫害から花や木を守ることで次世代に悪影響を残さないよう取り組んでいる。そして、地域への貢献を深め、地域とともに発展していく場所として、教育や地域産業への取組も進めている。

2 北川村モネの庭マルモッタン（文化観光拠点施設）が所在する北川村の概要

高知県東部地域に位置する北川村には、印象派の画家モネの自宅の庭を再現した「北川村モネの庭マルモッタン」（文化観光拠点施設）のほか、北川村出身で坂本龍馬と共に活躍した幕末の志士・中岡慎太郎を顕彰した「中岡慎太郎館」、1200年以上の歴史があり時代時代の史跡が点在する「野根山街道」、1000年以上の歴史がある高知県指定無形民俗文化財の「お弓祭り」、四国有数の泉質を誇る「北川村温泉ゆずの宿」など、文化、歴史、自然に関する魅力的な観光資源がある。

また、国内シェアの約半分を占める日本一の産地である高知県の中でもトップクラスの生産量を誇る北川村の「ゆず」は、幕末の志士・中岡慎太郎が庄屋時代に生産を奨励したことが始まりと言われ、現在でも北川村の多くの家には2～3本のゆずの木があり、郷土料理である「田舎寿し」や日常の食生活に使われたり、様々な加工品や土産物として販売されたり、厳しいEUの農薬基準をクリアしフランスをはじめとするEU各国やアメリカ、アジアなどに輸出されるなど、北川村の産業を支えるとともに、住民に根付く文化ともなっている。



＜ゆず畑＞



＜ゆず料理＞

そして、この地域特産の「ゆず」と、北川村にも現存する森林鉄道の記憶を残す遺構は、「森林鉄道から日本一のゆずロードへ―ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化―」のタイトルで日本遺産にも認定されている。高知県東部の中芸地域5町村（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）に点在する、この日本遺産の48の構成文化財のうち北川村には、

○国指定重要文化財(建造物)・近代化産業遺産群

旧魚梁瀬森林鉄道施設堀ヶ生橋、旧魚梁瀬森林鉄道施設二股橋、旧魚梁瀬森林鉄道施設小島橋

○その他構成文化財

ゆず畑の景観、柚子の古木、慎太郎とゆずの郷祭、中岡慎太郎宅跡、中岡慎太郎遺髪埋葬墓地、星神社のお弓祭りがある。



＜旧魚梁瀬森林鉄道施設堀ヶ生橋＞

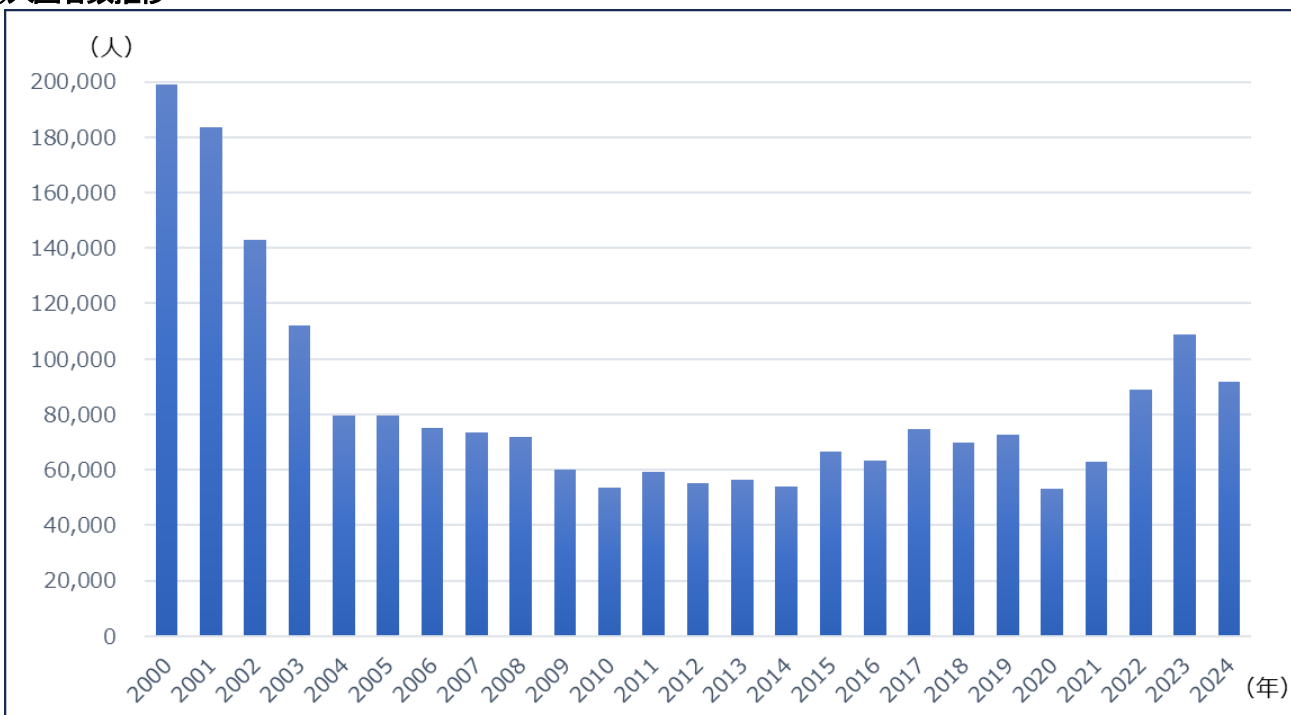


＜旧魚梁瀬森林鉄道施設二股橋＞

3-1-2. 来訪客の動向

＜「北川村モネの庭マルモッタン」の来訪客の動向＞

①入園者数推移



入園者数は、開園時の2000年の198,820人をピークに徐々に減少し、2004年からコロナ禍前の2019年までは5万人台から7万人台で推移していた。2017年以降は2009年から2014年の最低迷期の入園者数からの増加が見られ、7万人を超える入園者を確保していたが、2020、2021年はコロナ禍の影響で再び減少に転じている。2022年以降は、コロナ禍前の2019年の入園者数を上回っているが、2022年はウィズコロナ期のなかアウトドアや自然の中で楽しむ観光が嗜好され、密を避けて屋外で行動する旅行スタイルが主流であり、全国旅行支援のキャンペーンもあったこと、2023年は新型コロナウイルスの感染法上2類から5類への移行と全国旅行支援キャンペーンの継続があり、高知県としてはNHK連続テレビ小説「らんまん」効果により、高知県立牧野植物園をはじめ高知県の植物や花に関

心が集まり高知県全体の観光客数は過去最高を記録し「北川村モネの庭マルモッタン」にもその好影響が波及したこと、2024 年も「らんまん」効果の持続があったことから入園者数の増加につながっている。この 2022 年からの入園者数の増加は、このような外部要因によるところが大きく特殊な事例であると考えられるが、外部要因による大きな効果での入園者数増加を活かして継続して誘客増につなげていく取組が必要である。

高知県の経済成長と地域活性化を目指した包括的な計画である高知県産業振興計画（第 5 期：令和 6 年度～9 年度）のなかには、各地域の特性や課題に応じた地域アクションプランが定められており、そのアクションプランのひとつ「北川村観光 3 施設を核とした交流人口の拡大」において、「北川村モネの庭マルモッタン」の目標入園者数を、コロナ禍の中での全国旅行支援キャンペーンや NHK 連続テレビ小説による効果などの大きな外部要因を除外した、コロナ禍前の 2019 年の入園者数 72,549 人をベースとして、毎年 8 万人以上の入園者を確保することを目指し、2025 年度（令和 7 年度）84,000 人、2026 年度（令和 8 年度）86,000 人、2027 年度（令和 9 年度）88,000 人として設定しており、本計画で実施する事業を効果的に活用し、高知県産業振興計画の地域アクションプラン及び第 3 次北川村まち・ひと・しごと創生総合戦略に定めた目標数値達成に向けて取り組んでいく必要がある。

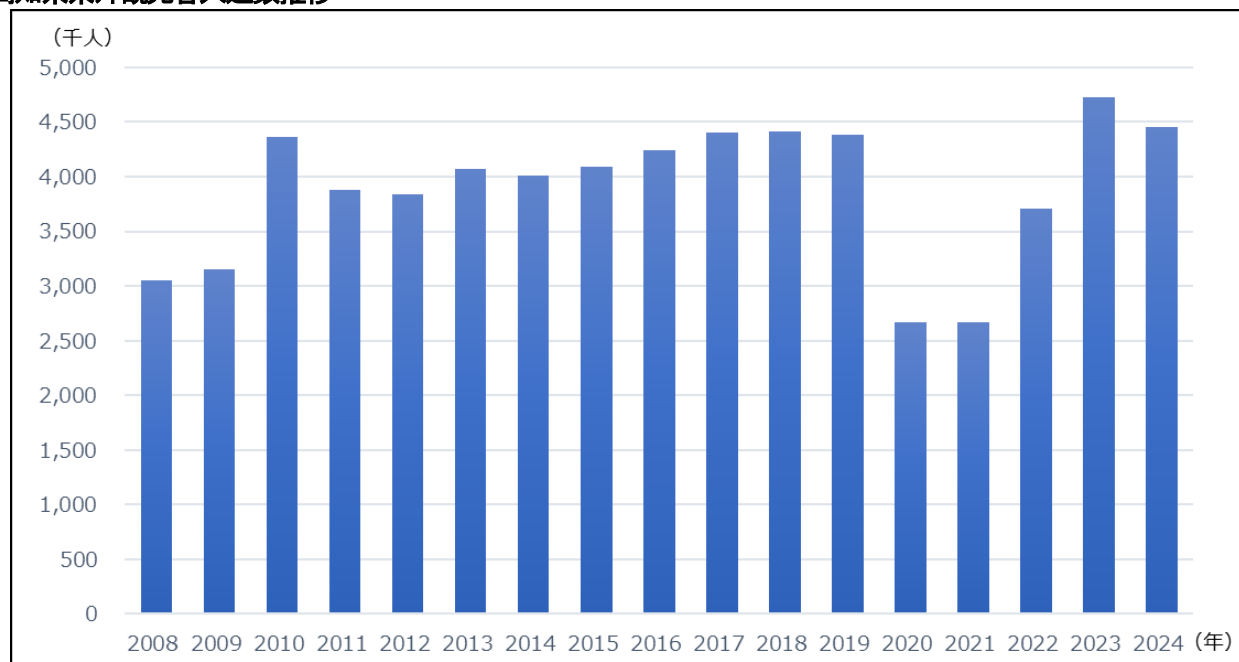
②外国人入園者数推移

入園者のうち外国人数は、2020 年 55 人、2021 年 50 人、2022 年 51 人、2023 年 934 人、2024 年 546 人となっている。2020 年から 2022 年はコロナ禍の状況のなか外国人来園者は少なかったが、2023 年は高知新港への大型クルーズ客船の寄港が 53 回あり、そのオプションツアーで主に欧米系の方の来園があったこと、また 2023 年 5 月には高知と台湾を結ぶタイガーエアの定期チャーター便が就航し、団体バスツアーのコースに組み込まれることもあったことから、2022 年と比較して外国人入園者は大幅に増加した。2024 年においても、大型クルーズ客船の高知新港への 49 回の寄港と、高知・台湾間のタイガーエアの定期チャーター便の効果により、欧米系と台湾からの外国人を中心として 546 人の入園者を記録している。

2025 年以降も高知新港への大型クルーズ客船の多くの寄港が予定されており、引き続きクルーズ客のオプションツアーでの訪問促進に取り組むことが必要である。また、2024 年は日本を訪れた外国人観光客数が過去最高を記録しており、団体客だけでなく個人旅行者を誘客する取組を積極的に行っていくことが重要となる。

<高知県の来訪客の動向>

①高知県県外観光客入込数推移

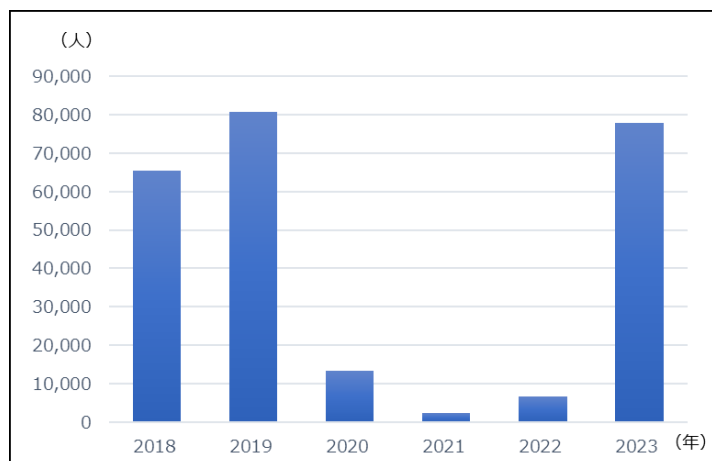


高知県では、長年、NHK大河ドラマ「龍馬伝」と、高速道路の休日上限 1,000 円の施策による効果により坂本龍馬関連施設を中心に大幅に観光客数が増加した 2010 年の 435 万人を上回ることを目標として様々な観光施策を展開し、2013 年以降は 400 万人以上の観光客が訪れるようになり、2017 年には官民連携による歴史観光を中心としたプロモーションやクルーズ客船の寄港の増加により 2010 年の数値を上回る 440 万人を達成した。その後、新型コロ

ナウウイルス感染症が拡大する 2019 年までは、2017 年とほぼ同じ観光客数を記録していたが、コロナ禍のなかで全国各地と同じように高知県を訪れる観光客数は大幅に落ち込んだ。そうしたなか、新型コロナウイルス感染症が収束した 2023 年には、高知県出身の植物学者・牧野富太郎博士をモデルとした NHK 連続テレビ小説「らんまん」の効果や、台湾との定期チャーター便の就航により、過去最多となる 472 万人の観光客が訪れている。

2025 年には、高知県出身の漫画家であり「アンパンマン」の生みの親である、やなせたかし氏とその妻をモデルとした NHK 連続テレビ小説「あんぱん」の放送を契機として、多くの観光客が訪れることが期待されていることから、「北川村モネの庭マルモッタン」においても、この「あんぱん」の効果を最大限に活かして誘客につなげていくことが必要である。また、高知県を訪れる多くの観光客に対して「北川村モネの庭マルモッタン」に訪れていただけるように、この施設ならではの魅力を強化し、来園者の増加に取り組んでいくことが重要となる。

②高知県の外国人延べ宿泊者数（従業員数 10 人以上の宿泊施設）推移



国・地域別外国人延べ宿泊者数（2019年と2023年の比較）

	国・地域	2019年	2023年	2023年/2019年比
	全体宿泊者数	80,750	77,860	96.4%
1	台湾	24,580	32,040	130.3%
2	香港	18,860	10,010	53.1%
3	中国	13,500	7,910	58.6%
4	米国	2,670	4,360	163.3%
5	韓国	4,520	3,920	86.7%
6	シンガポール	2,390	2,670	111.7%
7	豪州	1,270	2,130	167.7%
8	フランス	860	1,680	195.3%
9	タイ	800	1,010	126.3%
10	ドイツ	740	990	133.8%

※2023年の宿泊者の多い国・地域の順に記載

高知県の外国人延べ宿泊者数（従業員数 10 人以上の宿泊施設）は、2023 年にはほぼコロナ禍前の 2019 年の数値に回復してきている。2023 年の宿泊者の多い国・地域を見てみると、2023 年はコロナ収束後の国や地域ごとの海外旅行に関する政策の違いはあるが、台湾を除きアジアからの宿泊者は 2019 年の宿泊者数のレベルには戻っていない。一方で、欧米豪からの宿泊者は、2019 年と比較して大きく増加しており、特にフランス 195.3%、豪州 167.7%、米国 163.3%が高い伸び率となっている。

国においては、2030 年に訪日外国人旅行者数 6,000 万人を目標に様々な施策に取り組むなか、2024 年の訪日外国人旅行者数は約 3,686 万人と過去最高を記録し、大都市圏だけでなく地方への誘客の取組も積極的に進めていることから、「北川村モネの庭マルモッタン」においても外国人旅行者の誘致を強化していく必要がある。

<北川村が所在する高知県東部エリアの来訪客の動向>

※高知県東部エリア：室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村

①高知県県外観光客入込・動態調査報告書「施設等利用実績」中、高知県東部地域の集客数上位 3 施設

施設	市町村	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	5か年平均
むろと廃校水族館	室戸市	170,451	77,870	70,470	87,906	85,553	98,450
北川村モネの庭マルモッタン	北川村	72,549	53,335	62,729	88,700	108,859	77,234
室戸世界ジオパークセンター	室戸市	75,758	43,860	52,465	57,287	57,984	57,471

高知県県外観光客入込・動態調査報告書の「施設等利用実績」に掲載されている高知県東部地域の施設では、廃校となった小学校の教室やプールを活かして 2019 年にオープンして以来高い人気を誇る「むろと廃校水族館」と、国内で 5 番目に世界ジオパーク認定された室戸ユネスコ世界ジオパークの中核施設である「室戸世界ジオパークセンター」とともに、「北川村モネの庭マルモッタン」は高知県東部地域の主要観光施設となっている。

「北川村モネの庭マルモッタン」の文化的な魅力をさらに向上させ多くの観光客に訪れていただくことで、北川村内や高知県東部地域への誘客増と周遊促進につなげることができる。

②高知県県外観光客入込・動態調査 調査地点「モネの庭」での平均消費額

年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	7か年平均
平均消費額	25,474	22,103	25,600	25,438	22,933	24,919	26,440	24,701

高知県県外観光客入込・動態調査では、県内の10地点で四季ごとにアンケート調査を実施しており、「北川村モネの庭マルモッタン」もその調査地点の一つとなっている。この調査地点での平均消費額（宿泊費、飲食費、交通費、土産代、その他の合計）は年ごとに増減があり、必ずしも上昇基調となっているというわけではなく、2017年以降の平均額は24,701円となっている。

地域での観光消費を高めるためには、施設単体での取組とともに地域が連携した取組も重要となる。「北川村モネの庭マルモッタン」での地域産品を含む商品の販売力強化とともに、北川村内及び高知県東部地域での周遊箇所数や滞在時間を増加させることで消費は高まるため、関係機関と連携したPR等もこれまで以上に行っていく必要がある。

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

①高知県内の施設との比較

高知県立牧野植物園

高知が生んだ「日本の植物分類学の父」牧野富太郎博士の業績を顕彰するため、1958年に高知市の五台山に開園した植物園。起伏を活かした約8haの園地には、博士ゆかりの野生植物や園芸植物など3000種類以上が四季を彩る。1999年には園地面積を拡張し、植物に関する研究と教育普及の拠点となる「牧野富太郎記念館」を新設、2008年には、南園に東洋の園芸植物を鑑賞できる「50周年記念庭園」が誕生し、2010年には温室をリニューアルした。さらに、2019年には「こんこん山広場」と「ふむふむ広場」を拡張整備し、展示館内には4K映像を鑑賞できるシアターを開設、2023年には「植物研究交流センター」がオープンし、薬用植物資源の開発を主題とした応用研究を進めている。開園から半世紀を超えて、植物園の役割である保全・研究・教育普及・憩いの場のすべてを備えた総合植物園として歩み続けており、2023年には牧野博士がモデルとなるNHK連続テレビ小説「らんまん」が放送され、その効果により入園者が大幅に増加した。

その時期に見ごろを迎える植物を観察しながら講師とともに園内を歩く観察会や、多様な植物と直接ふれあうことのできる植物園の魅力や特性を活かしたキッズ向けのプログラムなども実施している。

【比較】

クロード・モネと牧野富太郎は、画家と植物学者という違いはあるが、「北川村モネの庭マルモッタン」と「高知県立牧野植物園」は世界的に知られている偉人に関する施設ということにおいては類似性がある。また、庭と植物園という違いはあるが、両施設とも植物や花々を鑑賞できるということにおいて同一性がある。ただし、単に植物や花の種類や数の多さ、面積の広さという観点で比較されるのではなく、モネの世界観や精神を現した、「フランス芸術アカデミー」から認められた世界で唯一の庭としての魅力を、これまで以上に発信したり、来園者に理解していただくことが重要となってくる。

施設の魅力を楽しんでいただいたり、理解を深めていただくために、「高知県立牧野植物園」では園内の見どころや見ごろの植物をガイドが紹介するガイドツアーを団体客向けに予約制で通年提供している。「北川村モネの庭マルモッタン」においても、庭園管理者によるガイドツアーを実施しているが、庭作りなどの本来業務があるため1年間に4回程度の実施にとどまっており、来園者に対して魅力を提供したり理解を深めていただくための手段をガイドツアー以外にも増やしていくことが求められる。

また、「高知県立牧野植物園」では、牧野植物園オリジナル作品を上映するシアターや、QRコード読み取り式のQRガイドなどによっても価値や魅力を提供しており、「北川村モネの庭マルモッタン」でも現状は提供体制が不十分である「モネの庭」の魅力や価値に触れることのできる様々な機会を創出していく必要がある。ただし、「北川村モネの庭マルモッタン」は「高知県立牧野植物園」とは魅力も施設規模も来園者が求めるものも異なるため、「モネの庭」の施設に応じた提供手段を検討することが重要である。

アクセスの観点では、「高知県立牧野植物園」は高知県の中でも中心部に位置し観光客が最も多く訪れる高知市に立地しており容易に訪れることができる一方、「北川村モネの庭マルモッタン」は高知市内から車で約1.5時間かかる場所に位置しており、地理的なハンデがある。このため、現状でも美しい庭や植物・花を求めて来園され

る方も一定数いるが、遠くても行ってみたいという「北川村モネの庭マルモッタン」ならでは、他と差別化できる魅力を強化し、さらなる誘客の促進や満足度の向上につなげていく必要がある。また、車を利用しない旅行者が高知市から「北川村モネの庭マルモッタン」を訪れる場合は列車・北川村営バスを利用、高知空港から訪れる場合は乗合タクシー・列車・北川村営バスを利用してアクセスできるが、そういったアクセス手段の情報があまり伝わっていないため、旅行者に対するアクセス情報の提供を強化していく必要もある。

周辺の観光スポットに関しては、「高知県立牧野植物園」は高知市内に立地しており、近隣に桂浜や高知城など高知県を代表する観光スポットが数多くある。「北川村モネの庭マルモッタン」周辺にもいくつもの観光スポットはあるが、知名度の高いスポットは多いとは言えず、周辺の観光資源の魅力も合わせて発信し、周遊につなげていくことも求められる。

②高知県外の施設との比較

印象派のなかでもモネは日本で高い人気を誇り、関東地方では国立西洋美術館（東京都）、ポーラ美術館（神奈川県）など、中国・四国地方では大原美術館（岡山県）、地中美術館（香川県）など作品を所蔵する美術館は多い。頻繁に展覧会も開催されており、2024年から2025年にかけて国立西洋美術館で開催された展覧会「モネ睡蓮のとき」には約80万人が訪れている。

また、アサヒグループ大山崎山荘美術館（京都府）、大原美術館（岡山県）のように、モネの作品を鑑賞できるだけでなくモネの代表作の一つ「睡蓮」を感じさせる池も楽しめる施設もある。

【比較】

全国にモネの作品を鑑賞できる美術館は数多くあり、これらの施設ではモネが描いた本物の絵画を見ることができる。一方で、「北川村モネの庭マルモッタン」は絵画を見るための場所ではなく、「本家ジヴェルニーのモネの庭」から認められた、モネが絵画制作と同じように情熱を傾けて庭作りを行い、作品の題材にもなった本物の「モネの庭」の世界に入り込める場所である。この点において、モネの描いた本物の作品をその美術館に行かなければ鑑賞できないように、「北川村モネの庭マルモッタン」は「本家ジヴェルニーのモネの庭」を除いて世界でただ一か所の、本物のモネの世界観を体感できる場所と言える。

モネは、自身が作り上げたジヴェルニーの庭を最高傑作と呼んでおり、モネが半生をかけて作り上げた庭はモネの絵画と同様にモネの優れた作品であり、モネの絵画を展示する各美術館においては絵画の鑑賞とその解説により作品理解を深めるように、「北川村モネの庭マルモッタン」においても、庭とその解説により理解を深めることができる。しかし、現状の「モネの庭」の展示・解説は来園者が十分にモネのことや「モネの庭」のことを知ることができるようにはなっておらず、展示・解説の充実を行うことで、来園者の理解が深まり、より楽しんでいただくことができるようになる。また、「北川村モネの庭マルモッタン」には絵画作品はないが、絵画に代わるものとして映像等を用いることで、文化資源の理解を促すことができる。

そして、美術館でモネの絵画を鑑賞するときに、モネが多くの作品を描いた「モネの庭」のことやモネ自身のことを知っていれば鑑賞体験の満足度が上がるように、「北川村モネの庭マルモッタン」においても、庭での滞在の満足度を上げるためには、展示・解説の充実だけでなく、ガイドツアーやオーディオガイドなど複数の手段を用いて来園者に魅力や価値を理解していただく取組が重要である。

「モネの庭」という作品は、モネが光と風景を切り取って描いた絵画作品とは違い、時間や天候、季節ごとに、また、植物や木々の成長により、絶えず変化していくものである。この絶えず変化する魅力を提供できることは、美術館での絵画作品の鑑賞では得られないものである。一方、変化していく庭で常にモネの世界観を表現していくことには難しさもある。このため、「北川村モネの庭マルモッタン」が持つ大きな強みである「本家ジヴェルニーのモネの庭」との関係性を活かし、これまで以上にジヴェルニーとの交流を強化し、様々な指導や助言をいただきながら庭作りを行うことで、移り変わる庭の魅力を絶え間なく向上させていくことができる。

③「北川村モネの庭マルモッタン」の強みと弱み

【強み】

・「本家ジヴェルニーのモネの庭」を除いて「モネの庭」を名乗ることを公式に認められた世界でただ一か所の施

設である。

- ・モネが半生をかけて作り上げ、代表作「睡蓮」をはじめとして多くの絵画の題材となったモネ自身が最高傑作と呼ぶ庭は、絵画と同様にモネの優れた作品であり、そのモネの作品世界に入り込める場所である。
- ・来訪者は、一瞬の光と風景を切り取った絵画作品の魅力とは異なる、時間や天候ごとの光によって刻一刻と移り変わる様々な庭の魅力を体感できる。また、季節により異なる花々や色づく木々などの四季折々の魅力があり、何度訪れても違った楽しみ方ができる。

〔弱み〕

- ・モネの描いた絵画の題材となった「モネの庭」の世界を体感できる場所であるが、展示・解説が不足しており、来園者が十分に文化資源を理解できるものとはなっていない。
- ・他施設で提供しているような、来訪者が理解を深めたり楽しむためのガイドツアーやオーディオガイド、映像などの手段が十分に提供できていない。
- ・車を利用しない旅行者が高知市や高知空港から訪れる場合は、列車・空港乗合タクシー・北川村営バスの利用でアクセスできるが、アクセス手段の情報があまり伝わっていない。
- ・高知市に立地する高知県立牧野植物園の近隣には桂浜など高知県を代表する観光スポットが数多くある一方、「北川村モネの庭マルモッタン」周辺には知名度の高い観光スポットが少ない。

3-2 課題

課題1 庭の魅力や価値を十分に伝えきれていない

「北川村モネの庭マルモッタン」は、モネが半生をかけて作り上げたジヴェルニーの庭の世界観やモネの庭作りの精神を表現し、来園者にモネの作品づくりの場所となった世界に浸っていただくため、庭には極力人工物を設置しておらず、庭での展示・解説は最小限にとどめている。こうしたことは、モネや「モネの庭」のことをよく知っている来園者にとっては満足度が高いものである一方、あまり知らない来園者に対しては、モネや「モネの庭」の魅力・価値を伝えきれているとは言い難い。庭での展示・解説を最小限にしているため、ギャラリー棟2階に展示・解説コーナーを設けてモネや「モネの庭」の情報を伝えようとしているが量・内容ともに不十分で、魅力を十分に伝えられておらず、より深く理解していただくための情報も不足している。

展示・解説コーナーでの情報提供の他、現在、「北川村モネの庭マルモッタン」では、季節ごとに庭園管理者による園内のガイドツアーを開催しているが、本来業務である庭づくりや庭園管理があり、常に開催できる状況ではなく、深く「モネの庭」を知りたい方のニーズに対応できていない。来園される方は、モネや「モネの庭」のことをよく知っている方、少しは知っている方、ほとんど知らない方など様々であるため、詳しい情報の提供と分かりやすさのバランスを考え、多様な方のニーズに応えられるコンテンツの提供が必要となっている。

また、「睡蓮」が咲く池を来園者が間近に見ることできるよう「水の庭」の園路を池に沿うようにした方がよい、「花の庭」ではモネが作り上げたような長方形の花壇を設置して花のバリエーションを増やした方がよいなど、「北川村モネの庭マルモッタン」のさらなる魅力向上のためのアドバイスを、「本家ジヴェルニーのモネの庭」とのこれまでの交流においていただいているが実現できていない。時間や天候、季節ごとに、そして年を重ねるごとに変化していく庭でモネの世界観を表現し続け、庭の価値を深く伝えていくためには、これまでに受けたアドバイスの実現と、「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流の強化により、常に庭の魅力を向上させていくことが必要である。

課題2 世界で唯一「モネの庭」の名称を掲げることを認められた庭であることの認知度・理解度が低い

来園者のうち1/3は、「北川村モネの庭マルモッタン」が世界で唯一「モネの庭」の名称を名乗ることを認められた庭であることを知らずに来園しており、知っていて来園している方と比較して、満足度は低い傾向にあり、知らずに来園した方に対するモネの庭に関する魅力や価値の提供が課題となっている。

一方、来園者の2/3には来園前から「モネの庭」の名称を掲げることを認められた施設として認識していただけており、これまでの活動やPRの成果が出ているとも言えるが、「本家ジヴェルニーのモネの庭」を見たことがあったり、実際にどのような庭であるかを知っている来園者は多くはないため、認められた庭であるという事実だけで

なく、「北川村モネの庭マルモッタン」がモネの世界観をどのように再現しているのか、どのような経緯で認められたのか等について理解していただくことも課題である。

また、テレビや雑誌などのメディアで時折り露出することはあっても、全国的に見れば「北川村モネの庭マルモッタン」の認知度は高いとは言えないため、さらなる誘客のためには高知県の北川村に、公式に「モネの庭」を名乗ることを許された世界で唯一の庭があることをさらに知っていただくとともに、訪れたいような魅力ある施設とする取組が重要となる。

そして、近年、日本を訪れる外国人旅行者が急増しているなか、「北川村モネの庭マルモッタン」へも訪れていただけるよう外国人の認知度を向上させることも課題であり、幅広くインバウンドの来園を増加させるための取組が求められている。しかし、インバウンドを一括りにせず、モネや「モネの庭」に関して比較的知識が多いと考えられる欧米系の方々に対しては、ジヴェルニーとは異なる高知の気候・植生でモネの世界観を表現した庭であることや、「本家ジヴェルニーのモネの庭」の庭園管理責任者の発案から生まれたジヴェルニーにはない「ボルディゲラの庭」があることなど、北川村ならではの魅力と、わざわざ訪れるべき価値を示すなど、ターゲットに応じて認知度拡大や理解を深めていく手法を検討していくことが重要である。

課題3 インバウンドを受け入れるための多言語対応が不足している

高知新港へのクルーズ船の寄港増加や、台湾と高知を結ぶ定期チャーター便の運航等により、外国人の来園も見られるようになってきているが、展示・解説や施設内案内の多言語化は一部にとどまっており、また、外国人が庭の理解を深めるためのガイドツアーなどのコンテンツもなく、インバウンド客が庭を十分に楽しめるようにはなっていない。

また、現在設置されている園内の案内サインは、英語併記がなされているものと、日本語表示のみのものが混在しており、整備時期によるデザインや表現の違いなども見られ、インバウンドの来園者がスムーズに園内を利用できるようにはなっていない。

情報発信に関しても、WEB サイト・施設案内リーフレットでは英語とフランス語での情報提供のみであり、外国人のうち高知県に最も来訪している台湾からの観光客等に対する対応ができていないなど、近年急速に増加している訪日インバウンド客に対するアプローチができていない。

課題4 来園者がストレスなく便利に楽しむための環境が十分とは言えない

「北川村モネの庭マルモッタン」では、入園チケットの購入、ショップでの商品購入、カフェでの食事の支払においてはキャッシュレス対応をしており、また、園内の大部分をカバーした Wi-Fi 環境を整えるなど、来園者の利便性向上のための取組は一定実施済みである。

しかし、園内案内の多言語化が不十分であったり、身体に障がいを持っている方や高齢者などに対する園内のバリアフリー対応の不足、広大で高低差もある園内に休憩場所が少ないなど、誰もが便利にストレスなく楽しめる環境が整っているとは言い難い。

また、入園者が「花の庭」やカフェを訪れる際は、2階建てのギャラリー棟の2階入口から入り、階段を降りて1階から外に出て「花の庭」やカフェに至る導線になっており、1階にあるショップ利用時にも階段を使う必要があるが、ギャラリー棟には階段のみでエレベーターがない状況であり、車いす利用の方やベビーカーに小さい子どもを乗せた家族連れなどには遠回りになるスロープの利用を案内するしかなく、施設内の移動に関して不便・負担をかけている。

アクセス面では「北川村モネの庭マルモッタン」は、高知観光の中心である高知市内から車で約1.5時間かかり、公共交通機関の手段も限られていることから車で訪れる来園者がほとんどであるが、現状 86 台が駐車できるスペースのある駐車場では、GW だけでなく夏休みや秋の行楽シーズンの週末には来園者の集中による駐車スペースの不足が生じている。本来入園していただけるはずであった来園者を逃しているとともに、駐車区画が機能的でないことも相まって駐車までに長時間を要することにより来園者の満足度の低下を招いている。障がい者用の駐車スペースも現状2台分しかスペースがなく、駐車場のバリアフリー対応ができていない。

「モネの庭」を訪れる方の大部分は車で来園されるが、車を使わずに来園する手段としては、高知市内からは列車で、高知空港からは空港乗合タクシーと列車により、最寄りの土佐くろしお鉄道奈半利駅まで来ることができ、

そこからは、北川村が運行する村営バスや、奈半利駅に設置しているレンタサイクルを利用すれば「モネの庭」に容易にアクセスできる。しかし、この一次交通と二次交通を使ったアクセス手段を知らせる情報が少なく、来園を考えている人に伝わっているとは言えない。また、奈半利駅の北川村営バスのバス停では、バスを利用すればモネの庭に行けることが分かるよう誰の目にも分かりやすく表示しているが、時刻表が多言語化されておらず、外国人の利用者にとっては不便な状態となっている。

課題5 北川村内や高知県東部地域での周遊や消費を高める取組が不足している

「北川村モネの庭マルモッタン」は北川村が設置した施設であることから、自施設だけの収益を求めるのではなく、村内の経済への貢献が求められており、また、県東部地域の中核となる文化観光施設として、地域消費拡大に寄与することも必要であるが、その取組は十分とは言えない。

また、「北川村モネの庭マルモッタン」は、高知県東部地域のほぼ中央部分に位置していることから、立地上の特性から「モネの庭」訪問者は道の駅などの県東部地域の他の施設に立ち寄ることは多く、北川村内や県東部地域への誘客と周遊に一定寄与しているが、地域連携 DMO である「高知県東部観光協議会」や、北川村を含む県東部地域内の文化資源を構成文化財とする「中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会」との連携は十分ではなく、さらなる誘客と周遊の実現のために、連携を強化して効果的な取組を行うことが課題となっている。効果的な取組を行っていくにあたっては、単に周遊していただくことを考えるのではなく、地域に観光による消費を生み出す視点が重要となる。

そして、「北川村モネの庭マルモッタン」は高知県東部地域で多くの訪問者がある施設であることから、地域内での滞在時間や日数を伸ばすことにより消費拡大につなげる取組や、ショップや商品の魅力を高めることで販売力を強化していくことも必要である。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

<コンセプト>

「モネの庭」の名称を名乗ることを公式に認められた世界で唯一の庭として、モネの世界観・精神性を高知の気候、環境、自然、植生、文化で表現し続ける。

<ターゲット>

- ①モネや印象派に関心のある層
- ②花・植物や庭園に関心のある層

〔日本国内〕

現状では、高知県を含む四国内からの来園者割合が高いため、首都圏や関西圏からの来園者の増加を目指す。また、年代としては50代以上の方の割合が高いため、徐々に増えてきている若年層を含めた20代から40代の方の増加を目指す。

〔インバウンド〕

個人旅行者としては、四国八十八ヶ所霊場の遍路での立ち寄りや、高知新港寄港のクルーズ船から個人での訪問などで欧米からの来園が増えており、また、高松空港・松山空港利用の台湾・韓国からの訪問者も増加していることから、今後のさらなる拡大を目指して、欧米、台湾、韓国をターゲットとする。

団体旅行者としては、現在、高知新港に寄港するクルーズ船からの団体客と、高知ー台北間の定期チャーター便を利用した団体客が訪れており、今後も高知新港へのクルーズ船の多くの寄港が予定されていること、台湾との定期チャーター便の期間延長もなされたことから、クルーズ客船利用の欧米豪の客層及び定期チャーター便利用の台湾からの客層をターゲットとする。

取組強化事項1：「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流促進・調査研究を活かした展示・解説の充実（課題1及び2関連）

これまで十分に伝えきれていなかった「モネの庭」やモネに関する情報を詳細に伝えたり、より魅力的な庭作り

を行うために、数年に一度の交流にとどまっていた「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流の促進と、「本家ジヴェルニーのモネの庭」やモネに関する調査研究を行う。

○交流の促進

「北川村モネの庭マルモッタン」の庭園管理者等の、モネの世界観を表現するための核である庭作りの知見やノウハウの獲得、庭作りのスキルアップを図る人材育成を行うとともに、「本家ジヴェルニーのモネの庭」から庭園管理責任者等を招聘し、北川村の「モネの庭」において魅力的な庭作りのための指導・助言を受ける。また、「本家ジヴェルニーのモネの庭」からの庭園管理責任者等の招聘時には、地域住民との交流の場を設け、地域への誇り・愛着の醸成、日仏の文化交流の促進にもつなげる。

○調査研究の実施

「本家ジヴェルニーのモネの庭」の復元に深く携わった前庭園管理責任者の著書などの文献調査と、「本家ジヴェルニーのモネの庭」の調査・ヒアリングを行うことにより、庭作りのプロセスや背景・哲学、モネの生涯、日本美術・文化がモネ自身や作品に与えた影響、「本家ジヴェルニーのモネの庭」の世界中から訪れる来園者に対しての取組などを研究する。

これらの取組による成果を、北川村オリジナルの「モネの庭」の庭作りに継続的に活かし、どの時期に訪れていただいても魅力が感じられる庭とするとともに、展示・解説に活かしていくことで、「北川村モネの庭マルモッタン」の大幅な魅力向上と外国人を含む来園者の文化資源の理解深化を実現する。

○展示・解説の充実

「北川村モネの庭マルモッタン」やモネに関する情報を魅力的かつ深く伝えるために、ギャラリー棟2階の展示・解説コーナーの大幅なリニューアルを行い、モネの作品世界に入り込める庭と展示・解説コーナーの接点を強化し、来園者への庭での多様な楽しみ方の提供と、滞在の満足度の向上につなげる。

現状の展示は、テーマやストーリーを考慮した構成とはなっていないため、導入として、北川村に「モネの庭」ができた経緯を含めた「北川村モネの庭マルモッタン」の紹介を行い、次に、モネと日本文化との関りなどモネに関することや、モネが作り上げたジヴェルニーの庭についての説明、あわせてモネの絵画（複製）を展示し、その次に「本家ジヴェルニーのモネの庭」から寄贈されたものの展示、21世紀を代表する日本画家の一人である平松礼二氏が「北川村モネの庭マルモッタン」のために描いた作品を展示するなど、テーマやストーリーを設定し、パネル等を用いて幅広い来訪者に向けた分かりやすい、見たくなるような展示構成へとリニューアルを行う。

また、現状の解説は情報が少なく、多言語化もされておらず、「モネの庭」の魅力を十分に伝えきれていないため、解説を見て庭を巡ると「モネの庭」の理解が進み、より楽しむことができるよう、情報の拡充と多言語化を図る。

あわせて、「モネの庭」やモネのことを深く知りたい方など様々な来園者のニーズに応えることができるよう、タッチパネル式モニターを導入し、詳細な解説や展示スペースの制約により伝えきれない情報を多言語で提供し、来園者の好みに応じて選択して見ることができるようにする。タッチパネル式モニターで選択できるコンテンツは、交流・調査研究の成果も活用し、継続的に追加を行いリピーターに対しても新たな情報が得られるようにする。

交流促進・調査研究による成果は、展示・解説の充実に活かすだけでなく、多言語デジタルオーディオガイドの導入、映像コンテンツの制作、WEBサイトの拡充等にも活かしていく。

取組強化事項2：多様化する旅行者のニーズに対応する様々なコンテンツの提供（課題1及び2関連）

近年、旅行や観光に対して求めるニーズは多様化しており、来園者の様々なニーズに対応した、「モネの庭」を訪れる誰もが楽しめるコンテンツ提供体制を整える。

・自身のペースで自由に庭を楽しみたい方や、「モネの庭」やモネの理解を深めたい方などに対応するため、多言語デジタルオーディオガイドを導入する。スマートフォンのようにタッチ操作で利用できる機器で、音声だけでなく画像やテキストも表示できるようにすることで、来園者への魅力の伝達と理解促進を図る。

・コミュニケーションを取りながら庭を楽しみたい方や、インバウンドの来園者などに対応するため、高知県内で活動している通訳案内士等と連携してガイドツアーを造成し、モネの世界観を高知の環境や自然、植生で表現した庭の魅力を伝え、深い理解を提供する。ガイドツアーを実施する通訳案内士や地域ガイドには、来園者に対してモネの庭の文化的価値を分かりやすく伝えることができるよう、「モネの庭」やモネについての知識を習得する講習を継続的に開催する。

・「モネの庭」やモネのことをあまり知らない方に対しての魅力の伝達、「モネの庭」やモネのことを知っている方に対してのさらなる理解の促進、天候が悪い時に訪れた方や身体的な理由であまり庭を回ることができない方の満足度の向上につなげるため、「北川村モネの庭マルモッタン」の様々な魅力を伝えるとともに、文化資源をより深く理解していただくことを目指した映像コンテンツを制作する。国外からの来園者にも対応できるよう字幕を入れて多言語化を図り、新たにシアタールームを整備して常時上映を行う。また、隣接するモネに関する書籍等を閲覧できるスペースをライブラリースペースとして、シアタールームの整備と一体として整える。

・早朝や夜間の時間帯を活用したプログラムやイベントを開催し、通常の入園時間帯では得られない魅力を提供する。【自主事業】

取組強化事項3：大幅な魅力の増進につながる園内のリニューアル（課題1及び2関連）

これまでの「本家ジヴェルニーのモネの庭」からの助言や、本計画に基づき強化する交流のなかで受けた庭作りに関する指導やアドバイス等を踏まえて、庭自体が作品である「北川村モネの庭マルモッタン」の園内のモネの作品世界の再現のための創作的なリニューアルを行い、モネの世界観のさらなる魅力向上を実現することで、集客力のアップと庭での滞在の満足度を上昇させる。

・園内で最も人気が高い「水の庭」では、「本家ジヴェルニーのモネの庭」では咲くことがなく、モネが咲かせることを夢見た「青い睡蓮」が咲くことから、「睡蓮」が咲く池を目当てに訪れる来園者は多い。モネは「睡蓮」を描くために池周辺の樹木の配置や視角などを調整し園路を配置したが、「北川村モネの庭マルモッタン」の「水の庭」ではそのように鑑賞できる場所が限られることから、園路を睡蓮の池に近づけるリニューアルを行い、モネが「水の庭」で300点以上を描いた「睡蓮」の、最初は太鼓橋や睡蓮を含む庭全体を描き、次に睡蓮を中心とした池にクローズアップし、最後には睡蓮と水面への反映を描くようになったという構図の移り変わりを実際に体感できるようにする。あわせて、こうした作風の変化や見どころなどを展示・解説や多言語オーディオガイド等で説明することにより、「水の庭」の大幅な魅力の増進と、庭の理解の深化、庭での楽しみ方の拡大を実現し、来園者の増加と満足度向上につなげる。

・「花の庭」は、1年を通して様々な花が咲き誇り、いつ訪れても異なる表情で来園者を迎える庭として人気が高いが、開園当初はスタッフのスキル不足と作業量の多さから「本家ジヴェルニーのモネの庭」の長方形の「絵の具箱の花壇」や、「花の庭」と「水の庭」を隔てる門の周囲を彩っていたバラの再現を断念せざるを得なかった。しかし、開園から25年が経ち、スタッフのスキルと作業の効率化も改善したことから、本家と北川村の悲願であった長方形の「絵の具箱の花壇」や、「花の庭」と「水の庭」を隔てる門の周囲を彩っていたバラを再現するためのバラ棚の整備を行い、「花の庭」の魅力を大きく向上させる。

・「北川村モネの庭マルモッタン」では、開園当初多くの方に訪れていただこうと、高知の自然そのままの姿が息づく「自然の森」や家族連れも楽しんでいただける遊具などを設置した「遊びの森」を整備してきたが、「北川村モネの庭マルモッタン」のコンセプトを来園者に理解していただくためには、このエリアの役割を充実させる必要がある。「自然の森」、「遊びの森」は、「水の庭」と「ポルディゲラの庭」をつなぐ場所にあり、「水の庭」から北川村の自然あふれる「自然の森」や、木々を活かした森のようなエリアとなる「遊びの森」を抜けると、モネが旅した地中海沿岸を感じさせる明るい景色が広がる「ポルディゲラの庭」にたどり着くというストーリー性の創出を念頭に、「自然の森」では遊歩道をバリアフリー化し、車いす利用の方なども楽しんでいただけるようリニューアルする。また、「遊びの森」では北川村の自然に親しめる、木々に囲まれた森のようなエリアへとリニューアルし、学校の課外学習や遠足で子ども達に多く訪れていただけるようにするとともに、来園者が広い園内を疲れることなく散策できるようにするために木陰のある休憩場所を設け、文化観光の推進において求められている幅広い来園者の期待に応えることに加え、園内の滞在時間の延長につなげる。

取組強化事項4：インバウンド対応の強化（課題3関連）

・取組強化事項1の理解を深めていただくための展示・解説の充実と、取組強化事項2の多様化する旅行者のニーズに対応する様々なコンテンツの提供で取り組む、展示・解説の充実、多言語デジタルオーディオガイド導入、通訳案内士等によるガイドツアーの造成において、インバウンドの受入拡大、インバウンドに対する魅力の提供・理解の促進を目指した多言語化を行う。多言語化にあたっては、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」の参照、ネイティブによる原稿作成やネイティブによる確認などにより、外国人にとって自然な母国語の表現で分かりやすく理解できるものとする。

・インバウンドの園内利用の利便性を高めるために、現状、英語併記がなされているものと日本語表示のみのものが混在している園内の案内サインを、統一されたデザインの分かりやすい英語併記の案内サインとすることで、外国からの来園者がスムーズに園内を利用できるようにする。

・現在のWEBサイトは英語・フランス語に対応しており欧米豪から訪れる観光客には対応できているが、増加傾向にある台湾や韓国からの観光客には対応できていないため、台湾・韓国の方にもアプローチできるようWEBサイトの多言語化拡充を行う。

取組強化事項5：快適に便利に楽しんでいただくための環境整備（課題4関連）

・現在、園内の最奥にある「ボルディゲラの庭」では園内放送が聞こえづらい状況であり、悪天候や緊急時の放送を届けることができるよう放送設備を拡充し、園内のどこにいても安心して楽しめる環境を実現する。

・現状、GWや夏休み、秋の行楽シーズンの週末等の多客期においては駐車スペースが不足し、駐車するまで時間がかかることによる来園者の満足度低下のみならず、年間500名程度の来園者の取りこぼしが生じている。このため、メインの第一駐車場を現在の86台から30台程度多く駐車できるよう駐車区画の改善等のリニューアル整備を行うとともに、新たに第二駐車場、第三駐車場を整備し、舗装・駐車枠の明示により50台程度駐車できるようにすることで、来園者の利便性向上・満足度向上と、多客期の来園者の取りこぼしをなくすことによる来園者の増加を図る。また、第一駐車場の障がい者用駐車スペースの拡充と利用しやすい場所への設置を行うことでバリアフリー対応を強化する。

・車いす利用の方やベビーカーに小さい子どもを乗せた家族連れなどギャラリー棟内の階段を利用できない方が、「花の庭」やカフェへの移動や、ギャラリー棟1階にあるショップ利用の際には、遠回りになるスロープを利用するしかない状況であり、この負担・不便を解消するためにエレベーターをギャラリー棟に設置し、幅広い来園者が負担なく快適に楽しめる環境を実現する。

・車を使わない旅行者や外国人の個人旅行者が「北川村モネの庭マルモッタン」に容易にアクセスできるよう、高知市からの列車利用でのアクセス手段や、高知空港から空港乗合タクシーと列車を使ったアクセス手段など、一次交通と二次交通を使ったアクセス情報を旅行者が旅マエに取得できる環境を整える。また、「モネの庭」最寄りの土佐くろしお鉄道奈半利駅のロータリーに設置している村営バスの停留所の時刻表等の案内を多言語化し、迷うことなくスムーズに訪れることができるようにする。あわせて、奈半利駅に設置されているレンタサイクルの情報の発信を増やすことで、「モネの庭」まで約3kmの道のりを自転車でも訪れることができることを伝える。

取組強化事項6：地域周遊の促進と地域消費の拡大（課題5関連）

・取組強化事項1の展示・解説の充実において設置するタッチパネル式モニターのコンテンツには、モネに関する情報だけでなく、北川村内や県東部地域の観光情報や、ゆずや中岡慎太郎などの文化・歴史の魅力なども盛り込み、「モネの庭」来園者の地域内周遊と消費拡大につなげる。

・通常の入園時間では得られない魅力を提供できるだけでなく、地域内での宿泊や飲食につながる、早朝や夜間の時間帯を活用したプログラム・イベントを実施する。【自主事業】

・北川村内の宿泊施設「北川村温泉ゆずの宿」ロビーに、「モネの庭」の写真集やモネに関する書籍などを配置した「モネの庭」コーナーを設置し、「北川村モネの庭マルモッタン」への誘導を図るとともに、「モネの庭」を訪れる前に「モネの庭」の魅力に触れることができる機会を作ること、庭を訪れた際の理解促進につなげる。

・高知観光の中心であり、起点ともなる高知市内及び高知空港からの誘客と周遊促進を目指し、高知空港でレンタカーを利用する旅行者に対して、レンタカー会社と連携して北川村内の文化施設・観光施設への周遊を促す企画を

実施するとともに、土佐くろしお鉄道により高知市から列車を利用して「モネの庭」を訪れる旅行商品を企画・販売する。また、日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会が行うガイドツアーで、日本遺産構成文化財とともに「モネの庭」にも立ち寄るツアーを造成することを検討していく。

・「ボルディゲラの庭」内の「リヴィエラの小屋」のカフェ利用促進を目指した分かりやすいメニュー表示と多言語化、「モネの庭」に関する商品だけでなく地域産品も販売しているショップにおいて購入意欲を高めるためのリニューアルを行い、「北川村モネの庭マルモッタン」での売上と地域消費を拡大させる。

・情報発信の強化として、国内向けには、地域連携DMOである（一社）高知県東部観光協議会、（一社）北川村文化観光公社、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携して首都圏・関西圏で、「北川村モネの庭マルモッタン」や北川村内の観光・文化資源、県東部地域の観光スポット、日本遺産の構成文化財を一体としたPRと、モネに関心のある層や「モネの庭」に多く訪れている女性層にアプローチするための美術雑誌及びライフスタイル雑誌への記事掲載を実施する。インバウンド向けには、台北国際旅行博へのブース出展など、高知県への来訪が最も多い台湾の旅行者をターゲットとしたPRを行う。これらの取組により認知度向上・誘客促進・周遊促進につなげる。

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

モネは世界的に高い人気を誇る画家であり、その知名度を活かすとともに、世界で唯一「モネの庭」の名称を名乗ることを許された「もうひとつのモネの庭」として、本計画の取組を通じて魅力が大きく高まり、文化理解が進むことで、「北川村モネの庭マルモッタン」への国内外からの来訪者の継続的な増加と満足度向上、「モネの庭」及び北川村のファンやリピーターの獲得が実現する。

「北川村モネの庭マルモッタン」においては、地域特産であるゆずを植栽として使ったり、北川村から見える風景を借景とした庭作りを行うなど、北川村の文化を育んできた自然環境を活かしてモネの世界観を表現している。また、ゆずは、「本家ジヴェルニーのモネの庭」があるフランスへも輸出されており、「YUZU」として人気があり、認知度も消費も年々高まってきている。

「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流により生まれジヴェルニーの庭園管理責任者の監修のもと2000年に文化施設として開園した「北川村モネの庭マルモッタン」のほか、北川村には、ゆずや幕末の志士・中岡慎太郎の文化・歴史が受け継がれている。ゆずは、中岡慎太郎が庄屋時代に生産を奨励したことがはじまりと言われ、現在でも郷土料理である「田舎寿し」や日常の食生活に使われたり、様々な加工品や土産物として販売されている。

そして、かつて地域最大の産業であった林業が衰退した後に、林業に代わる産業として振興してきたのがゆず栽培であり、木材を運んでいた森林鉄道が行き交った山間や川沿いにゆずを植え新たな産業に育ててきたことで、日本遺産にも認定されている。

こうした北川村のそれぞれの文化や歴史、産業がつながっているストーリーを、「北川村モネの庭マルモッタン」を中核として本計画の取組を通じて、「北川村モネの庭マルモッタン」の設置者である北川村及び指定管理者である（株）きたがわジャルダンだけでなく、村の文化振興と観光振興を担う（一社）北川村文化観光公社がこれまで以上に「北川村モネの庭マルモッタン」と地域の他の文化観光施設等との連携強化を図り、村内での周遊を促す企画やWEBサイトでの発信強化などを継続的に実施していくことで、個々の文化の魅力の向上と各文化資源間の周遊が実現し、つながりを持った北川村の新たな文化的価値が創出されることで、将来にわたって地域における文化観光の推進に大きく貢献する。

また、県東部地域の文化観光推進事業者と連携し、地域一体となって県東部地域の主要観光施設である「北川村モネの庭マルモッタン」を中核とした新たな滞在と周遊を生むことで、北川村のみならず県東部地域内各所へのさらなる周遊と、文化観光の推進による地域消費の拡大が実現できる。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

「北川村「モネの庭」マルモッタン設置及び管理に関する条例」においては、「北川村の自然環境を活かした文化芸術を通じ、地域活性化を促進し、住民の生活及び文化の向上に寄与することにより地域の振興を図るため、北川村「モネの庭」マルモッタンを設置する。」と謳われ、「北川村モネの庭マルモッタン」は、文化を通じて地域活性化を促す施設であることが求められており、世界で唯一「モネの庭」の名称を掲げることが許された、高知の気候を活かした光と植物でモネの世界観や精神を表現する文化施設として、開園当初から文化振興・観光振興・地域

振興に取り組み、現在では高知県東部地域を代表する観光スポットになるとともに、地域雇用の創出や、ゆずをはじめとした地域産業の振興につなげている。

本計画に基づく文化観光拠点施設としての機能強化に向けた取組を実施し、文化資源の魅力増進・文化資源の理解深化・利便性や満足度の向上・情報提供の強化を図ることで、来園者の増加による入園料やショップでの売上増加、ショップで取り扱う地域産品やカフェで提供する地域食材の売上増加など、「北川村モネの庭マルモッタン」のみならず地域への幅広い経済効果が期待できる。「モネの庭」で増加した収入を、モネの世界観を表現する庭づくりや、魅力的なプログラムやイベントの開催などに再投資することで、継続した来園者の獲得と満足度の向上、地域への周遊による地域活性化へとつながっていく。

「北川村モネの庭マルモッタン」や北川村内・県東部地域内への効果だけでなく、通訳案内士等と連携して園内ガイドツアーを造成することなどを通じて、高知県内で活動する観光に携わる方の新たな活躍の場を創出することにもつながる。

また、本計画により、「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流を強化し、「北川村モネの庭マルモッタン」の魅力を大きく高めるとともに、来園者等にモネや「モネの庭」の理解を深めていただくことは、交流の過程や成果を通じて、日仏の文化交流促進や文化理解促進に大きく貢献する。

そして、「北川村モネの庭マルモッタン」は、全国に数多くある絵画や美術品を所蔵・展示している博物館や美術館の魅力とは異なる、日本文化にも影響を受けて創作活動を行った世界的に有名な画家であるモネの世界観を、高知の植物や環境を活かして表現する「もうひとつのモネの庭」という、他にはない差別化できる魅力を持った文化観光拠点施設となることで、認知度の向上、訪問者の増加、満足度の向上、地域周遊の促進が図られる。このことが将来にわたって目に見える成果として地域に浸透していくことで、村民や地元の様々な事業者の地域への愛着や誇りが醸成されるとともに、地域へ経済的な好影響を及ぼし、地域が活性化する好循環が創出される。

4. 目標

目標①：入園者数（課題 1、2 関連、取組強化事項 1、2、3 関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

<考え方>

高知県産業振興計画（第 5 期：令和 6 年度～9 年度）のなかに各地域の特性や課題に応じた地域アクションプランが定められており、そのアクションプランのひとつ「北川村観光 3 施設を核とした交流人口の拡大」において、「北川村モネの庭マルモッタン」の目標入園者数を、大きな外部要因（コロナ禍における全国旅行支援キャンペーンやNHK連続テレビ小説「らんまん」効果等）を除外したコロナ禍前の 2019 年（令和元年）の入園者数 72,549 人をベースとして、毎年 8 万人以上の入園者を確保することを目指し、2025 年度（令和 7 年度）84,000 人、2026 年度（令和 8 年度）86,000 人、2027 年度（令和 9 年度）88,000 人として設定している。

コロナ禍前の 2019 年（令和元年）から 2024 年（令和 6 年）までの 6 か年の入園者数平均は 79,656 人（≒80,000 人）であり、本計画における目標値は、高知県産業振興計画の地域アクションプランで設定している目標と整合性を図ることとし、計画初年度の 84,000 人から毎年 2,000 人ずつの増加を目指し、計画最終年にはNHK連続テレビ小説「らんまん」等特需があった 2024 年（令和 6 年）の入園者数を上回る 92,000 人を目標とする。また、計画期間終了以降は、92,000 人以上の来園者を常時達成することを目指す。

<把握方法>

個人入園客についてはチケット売り場での確認により、団体客については旅行会社等主催者との調整時又は来園時に人数を確認する。

年度	実績		目標				
	令和元年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
目標値	72,549 人	91,763 人	84,000 人	86,000 人	88,000 人	90,000 人	92,000 人
事業 1 ー②：展示・解説充実事業				設計、展示計画策定	展示・解説リニューアル整備	交流促進・調査研究の成果を活用したコンテンツ追加 （来園者の利用）	交流促進・調査研究の成果を活用したコンテンツ追加 （来園者の利用）
事業 1 ー③：水の庭リニューアル整備事業				リニューアル工事	（来園者の利用）	（来園者の利用）	（来園者の利用）

事業１－④：花の庭リニューアル整備事業			リニューアル工事	(来園者の利用)	(来園者の利用)	(来園者の利用)	(来園者の利用)
事業２－③：映像コンテンツ制作事業			企画作成	映像コンテンツ制作・公開	映像コンテンツ制作・公開	映像コンテンツ制作・公開	(継続して公開)
事業６－①：ギャラリー棟改修整備事業				設計	シアタールーム・ライブラリースペース整備、建物改修整備工事	(来園者の利用)	(来園者の利用)

目標②：外国人入園者数（課題１、２、３、４関連、取組強化事項１、２、４、５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

<考え方>

10年後の外国人入園者数は、コロナ禍以降の最大値である令和５年度の934人の2倍となる1,900人（934人×2＝1,868人）を目標とする。（令和６年度の546人を基準とすると、3.5倍）

直近の外国人入園者数（546人≒550人）から、計画に基づく事業が、ある一定進むまでの３年目までは毎年100人ずつの増加を目指し、事業の取組が進み成果が発揮できる４年目以降は毎年150人ずつの増加を目指す。この目標により、事業開始後４年目にはコロナ禍以降の最大値である934人を上回る1,000人を、計画最終年には1,150人の外国人入園者数を達成する。

年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度
目標人数	650人	750人	850人	1,000人	1,150人	1,300人	1,450人	1,600人	1,750人	1,900人

<把握方法>

個人入園客についてはチケット売り場での確認により、団体客については旅行会社等主催者との調整時又は来園時に人数を確認する。

年度	実績		目標				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
目標値	934人	546人	650人	750人	850人	1,000人	1,150人

事業２－①：多言語デジタルオーディオガイド導入事業				オーディオガイドコンテンツ制作・機器導入	(来園者の利用)	(来園者の利用)	(来園者の利用)
事業２－②：通訳案内士等によるガイドツアー造成事業					ガイドツアー実施体制構築、ガイドツアー造成	(来園者の利用)	(来園者の利用)
事業３－①：園内案内サイン多言語化事業				園内案内サイン多言語化整備	(来園者の利用)	(来園者の利用)	(来園者の利用)
事業５－①：WEBサイト拡充事業				WEBサイト多言語化	(公開)	(公開)	調査研究を活かしたWEBサイト掲載情報拡充

目標③：来園者満足度（課題１、３、４関連、取組強化事項１、２、３、５関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

＜考え方＞

令和６年度に実施したアンケートでは、園内全体の満足度を５段階（大変満足・満足・普通・不満・大変不満）で調査しており、「大変満足」と回答した割合は３６％であった（大変満足３６％、満足５３％、普通３％、不満６％、大変不満２％）。その結果を基準として、計画最終年度の令和１１年度には園内全体の満足度について、５段階評価で「大変満足」と回答する割合が５０％となることを目指す。計画に基づく事業が、ある一定進むまでの最初の３年間は毎年２％ずつの増加を目指し、事業の成果が見え始める４年目～５年目は毎年４％ずつの増加を目標とする。

＜把握方法＞

来園者に対して行うアンケート調査により把握する。

年度	実績		目標				
	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度
目標値	—	36%	38%	40%	42%	46%	50%

事業１－①：交流促進・調査研究事業			ジヴェルニーとの交流、ジヴェルニー調査、文献調査	ジヴェルニーとの交流、ジヴェルニー調査、文献調査、交流促進・調査研究成果の各事業への反映	ジヴェルニーとの交流、ジヴェルニー調査、文献調査、交流促進・調査研究成果の各事業への反映	ジヴェルニーとの交流、交流促進・調査研究成果の各事業への反映 (調査研究の自走化)	ジヴェルニーとの交流、交流促進・調査研究成果の各事業への反映 (調査研究の自走化)
事業１－⑤：自然の森・遊びの森リニューアル整備事業						遊びの森リニューアル工事	自然の森リニューアル工事
事業１－⑦：北川村温泉ゆずの宿での「モネの庭」の魅力提供事業			モネの庭コーナーの設置	(宿泊者等の利用)	(宿泊者等の利用)	(宿泊者等の利用)	(宿泊者等の利用)
事業３－②：園内放送設備拡充事業			放送設備設置	(来園者に対して使用)	(来園者に対して使用)	(来園者に対して使用)	(来園者に対して使用)
事業３－③：アクセス情報提供強化事業				各組織WEBサイトへの詳細アクセス情報掲載、バス案内の多言語化	(来園者の利用)	(来園者の利用)	(来園者の利用)
事業６－②：利便性向上・バリアフリー対応強化事業			駐車場整備	エレベーター設計	ギャラリー棟へのエレベーター設置工事	(来園者の利用)	(来園者の利用)

目標④：地域での平均消費額（課題５関連、取組強化事項６関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

＜考え方＞

高知県県外観光客入込・動態調査の調査地点「モネの庭」での平均消費額は必ずしも上昇基調となっているわけではなく年ごとに増減がある。データのある直近の５年間は、2019年（令和元年）25,600円、2020年（令和２年）25,438円、2021年（令和３年）22,933円、2022年（令和４年）24,919円、2023年（令和５年）26,440円であり、

平均消費額のうち最低額はコロナ禍で消費活動が減退した2021年（令和3年）22,933円、最高額はコロナが終息し県外からの観光客が回復、消費活動が活発となった2023年（令和5年）26,440円となっている。

本計画では、2023年（令和5年）26,440円（≒26,500円）を基準とし、過去5年間の最低額と最高額の差3,507円（≒3,500円）の増加額を、計画期間の5年間で達成し、地域での平均消費額が30,000円台となることを目指す。計画に基づく事業が、ある一定進むまでの最初の3年間は毎年500円ずつの増加を、事業の成果が見え始める4年目～5年目は1,000円ずつの増加を目標とする。

<把握方法>

毎年実施している高知県県外観光客入込・動態調査の調査地点「モネの庭」での平均消費額により把握する。

年度	実績		目標				
	令和4年度	令和5年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
目標値	24,919円	26,440円	27,000円	27,500円	28,000円	29,000円	30,000円
事業1ー⑥：早朝や夜間の時間帯を活用したプログラム・イベント実施事業【自主事業】			プログラム・イベントの実施	プログラム・イベントの実施	プログラム・イベントの実施	（プログラム・イベントの自走化）	（プログラム・イベントの自走化）
事業3ー④：高知市内及び高知空港からの周遊促進事業				レンタカー利用者向け周遊企画実施、列車を利用した旅行商品企画・販売	（継続してレンタカー利用者向け周遊企画及び列車を利用した旅行商品販売を実施）	（継続してレンタカー利用者向け周遊企画及び列車を利用した旅行商品販売を実施）	（継続してレンタカー利用者向け周遊企画及び列車を利用した旅行商品販売を実施）
事業4ー①：ショッピングリニューアル事業						ショッピングリニューアル工事	（来園者の利用）
事業4ー②：ボルディゲラの庭・カフェ利用促進事業					メニュー等多言語化	（来園者の利用）	（来園者の利用）

事業５－②：情報発信強化事業				共同申請者と連携した関東や関西でのPR、雑誌への記事掲載	共同申請者と連携した関東や関西でのPR、台湾向けPR	共同申請者と連携した関東や関西でのPR	共同申請者と連携した関東や関西でのPR
----------------	--	--	--	------------------------------	----------------------------	---------------------	---------------------

5. 目標の達成状況の評価

「北川村モネの庭マルモッタン」の来園者は月ごとの把握を行い、満足度については定期的な来園者へのアンケート調査を実施し、毎年度分析を行う。

目標の達成状況の確認や各年度ごとの事業の進捗を、北川村が中心となって（株）きたがわジャルダン、（一社）北川村文化観光公社、（一社）高知県東部観光協議会（地域連携 DMO）、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、土佐くろしお鉄道（株）と毎年度末に検証・評価を行い、次年度以降の事業に活かし、連携して目標達成に向けて取り組んでいく。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

①文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

・「北川村モネの庭マルモッタン」は、モネが作り上げたジヴェルニーの庭の世界観を表現し、来園者にモネの作品づくりの場所となった世界に浸っていただくため、庭には極力人工物を設置しておらず、庭での解説は最小限にとどめていることから、庭での情報提供は十分とは言えない。庭での解説を最小限にしているため、ギャラリー棟2階に展示・解説コーナーを設けているが量・内容ともに不十分な状況にある。

・展示・解説コーナーでの情報提供のほかに、季節ごとに庭園管理者の解説付きで園内のガイドツアーを開催しているが、本来業務である庭づくりや庭園管理があり、頻繁には開催できていない。

・来園者に配布している施設案内リーフレットで、「北川村モネの庭マルモッタン」ができた経緯や庭の魅力・見どころなどを紹介している。

②情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

・「モネの庭」やモネに関して詳しく知りたい方のニーズに対応するための、音声ガイドや映像コンテンツ・映像を上映するシアタースペースがない。

・園内の主要エリア（水の庭、花の庭、ボルディゲラの庭、ギャラリー棟、カフェ）ではWi-Fiが使えるよう整備している。

・来園者が「モネの庭」に関する情報を得るには、自身のスマートフォン等の端末でWi-Fiに接続し、WEBサイトにアクセスしていただくしかない状況である。

③外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

・来園者に配布する施設案内リーフレットは、英語とフランス語で作成している。

・WEBサイトでは、英語とフランス語で情報提供を行っている。

・施設内の展示・解説や案内サインについては、一部英語併記としているが、すべてが多言語化されているわけではない。

・現状の外国語による解説や紹介は、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿ったものとはなっていない。

6-1-2. 本計画における取組

①文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

・展示・解説コーナーでは、「モネの庭」やモネに関することについてテーマやストーリーを設定し、パネル等を用いて幅広い来訪者に向けたより分かりやすい、見たくなるような展示とする。また、現状の解説は情報が少なく、多言語化もされておらず、魅力を十分に伝えきれていないため、解説を見て庭を巡ると「モネの庭」の理解が進み、より楽しむことができるよう、多言語での解説の充実を図る。あわせて、「モネの庭」やモネのことを深く知りたい方など様々な来園者のニーズに応えることができるよう、タッチパネル式モニターを導入し、詳細な解説や展示スペースの制約により伝えきれない情報を提供する。

・「水の庭」や「花の庭」、「ボルディゲラの庭」など屋外において来園者が深い情報を得ることができるよう、多言語に対応したオーディオガイドの導入と通訳案内士等によるガイドツアーの造成を行い、現在も行っている庭園管理者の解説付きガイドツアーとあわせて、来園者のそれぞれのニーズに応じて利用していただけるようにする。

・宿泊施設である「北川村温泉ゆずの宿」のロビーに「モネの庭」コーナーを設け、「モネの庭」の写真集・モネに関する書籍等の配置を行うことで、宿泊者等に「モネの庭」の魅力を知っていただくとともに「モネの庭」を訪れた際の理解促進につなげる。

②情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

・展示・解説コーナーにタッチパネル式モニターを導入し、来園者の関心や好みに応じて、解説コンテンツを見ることができるようにする。選択できるコンテンツは、交流促進・調査研究の成果も活用し、年度ごとに追加を行い

リピーターに対しても新たな情報が得られるようにする。

・「モネの庭」の文化的価値の理解を深めていただくために導入する多言語オーディオガイドは、スマートフォンのようにタッチ操作で利用できる機器で、音声だけでなく画像やテキストも表示できるようにすることで、来園者の理解促進を図る。

・「モネの庭」やモネの様々な魅力を伝えるとともに、文化的価値をより深く理解していただくために、情報伝達量が文字よりも圧倒的に多い映像コンテンツを制作し、整備するシアタールームで常時放映を行う。

③外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

・展示・解説コーナーの解説は英語併記とすることとし、設置するタッチパネル式モニターで選択できる解説コンテンツも英語を選択できるようにする。

・導入するデジタルオーディオガイドは、日・英の2言語対応とし、インバウンドでも利用していただけるものとする。英語音声は、ネイティブが原稿を作成するなど、ネイティブにとって自然な母国語の表現で理解できるものとする。

・通訳案内士によるガイドツアーを造成し、英語で園内の詳細な案内ができるようにする。

・制作する映像コンテンツは、国外からの来園者にも対応できるよう字幕を入れて多言語化を図る。

・英語とフランス語での情報提供をしているWEBサイトの多言語化拡充により、ターゲットとする欧米・台湾・韓国に対応できる英語・フランス語・繁体語・韓国語での情報提供体制を整える。

・本計画で実施する外国語を用いた解説・紹介は、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿ったものとする。

6-2 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

①文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

「北川村モネの庭マルモッタン」の指定管理者である（株）きたがわジャルダンが、「北川村モネの庭マルモッタン」の運営を通じて、（一社）北川村文化観光公社と（一社）高知県東部観光協議会と連携し、誘客・周遊の取組や、それぞれのWEBサイトでの情報発信を行っているが、いくつかの個別の連携にとどまっており、効果的に連携して地域全体の文化観光を推進していく体制が整っているとは言えない。

②文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

・北川村内においては、「北川村モネの庭マルモッタン」等主要観光施設等の来訪者数のデータを収集し村内では共有されているが、分析や村外の観光振興を担う組織への共有はなされていない。

・（一社）高知県東部観光協議会は、地域連携DMOとして県東部地域の各種観光データを収集・整理しており、理事会等で報告されているが、データを受け取った各地域側が効果的に活用できていない。

③文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

北川村まち・ひと・しごと創生総合戦略において方針やKPIが設定され、毎年度検証が行われているが、北川村以外の組織とは連携したPDCAサイクルは確立されていない。

6-2-2. 本計画における取組

①文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

北川村産業政策課が中心となって（株）きたがわジャルダン、（一社）北川村文化観光公社、（一社）高知県東部観光協議会、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、土佐くろしお鉄道（株）と強固な連携体制を構築し、定期的に協議を行うなど本計画に基づく事業を情報共有しながら連携して取り組み、地域の文化・観光・経済の好循環を実現する。

②文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

「北川村モネの庭マルモッタン」の指定管理者である（株）きたがわジャルダンが収集する入園者数やアンケート

ト調査のデータと、地域連携 DMO である（一社）高知県東部観光協議会が収集・把握する県東部地域の観光動向や各種データ、（一社）北川村文化観光公社が把握する北川村内の観光関連データを共有・分析することで、本計画における次年度以降の事業に活かしていくとともに、各組織の取組にも活用し、北川村及び県東部地域の文化観光推進につなげる。

③文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

連携する文化観光推進事業者と協議のうえ事業の方針やKPIを設定し、毎年度その状況を文化観光推進事業者とともに検証する連携体制を確立し、検証・評価を行うことで、PDCAサイクルに基づいた効果的な事業展開を図っていく。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ・（株）きたがわジャルダンや地域連携DMOである（一社）高知県東部観光協議会の旅行会社へのセールス活動により、「モネの庭」を含む県東部地域を巡るツアーが造成・販売されるなど、これまでも連携した取組を行い誘客につながっているが、地域の文化観光推進事業者との連携はまだ十分とは言えず、北川村特産のゆずも構成文化財となっている中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会や、地域の交通事業者である土佐くろしお鉄道（株）等との連携を強化して、文化資源の魅力を発信し、誘客と周遊を促進していくことが必要である。
- ・北川村では「モネの庭」へも立ち寄る北川村営バスを運行しており、車を使わない観光客が「モネの庭」に容易にアクセスできるよう、土佐くろしお鉄道奈半利駅のロータリーに観光客に分かりやすいバス停を設置している。
- ・土佐くろしお鉄道（株）においては、最寄りの奈半利駅に「モネの庭」のPR看板の設置や、「モネの庭」ラッピング列車を運行するなど、地域の文化・観光振興に寄与している。
- ・（株）きたがわジャルダンは、「北川村モネの庭マルモッタン」と同じく「北川村温泉ゆずの宿」の指定管理者となっており、宿で「モネの庭」の入園券の販売や、村内観光スポットの案内を行うなど宿泊者に対して周遊を促している。また、2025年2月に国道493号北川道路の和田トンネル区間が開通し、「北川村温泉ゆずの宿」と「モネの庭」間のアクセスが改善されたため、「北川村温泉ゆずの宿」のWEBサイトでも、移動の負担が軽減されたことなどを発信し、北川村での宿泊者増に努めている。

6-3-2. 本計画における取組

文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めたにぎわいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

- ・「北川村モネの庭マルモッタン」の指定管理者である（株）きたがわジャルダンと連携し、「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流の強化・調査研究を行い、モネの世界観を表現する庭作りに継続的に活かすとともに、展示・解説の充実、多言語デジタルオーディオガイドの導入、映像コンテンツの制作、WEBサイトの拡充等に活用し、文化資源としての大幅な魅力向上と外国人を含む来園者の理解深化につなげる。
- ・（株）きたがわジャルダンにおいて、にぎわい創出にもつながる早朝や夜間のプログラム・イベントを開催し、「モネの庭」の魅力のみならず、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産の構成文化財、県東部地域の観光情報の提供も行い、地域の多様な文化の理解と、地域内滞在の促進、地域消費の拡大を図る。
- ・高知県内で活動している通訳案内士等と連携体制を構築し、国内外からの来園者に庭の魅力を伝えるガイドツアーを造成する。
- ・車を利用しない旅行者に対して、高知市や高知空港から土佐くろしお鉄道の列車・空港乗合タクシー・北川村営バス等を使って「モネの庭」を訪れるアクセス情報の提供量を拡充する。
- ・土佐くろしお鉄道奈半利駅のロータリーに設置している北川村営バスのバス停の時刻表等を多言語化し、インバウンドの「モネの庭」へのアクセスを容易化する。
- ・レンタカー会社と連携し、高知空港からレンタカーを利用する旅行者に対して、「モネの庭」と、中芸のゆずと

森林鉄道日本遺産の構成文化財や、県東部地域の観光スポットへの訪問につながる周遊企画を実施する。

- ・土佐くろしお鉄道（株）と連携し、高知観光の中心である高知市内から列車を利用して「モネの庭」を訪れる旅行商品を企画し販売する。
- ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携して、日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会が行うガイドツアーで、日本遺産構成文化財とともに「モネの庭」にも立ち寄るツアーを造成することを検討する。
- ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、（一社）高知県東部観光協議会、（一社）北川村文化観光公社と共同で首都圏・関西圏で PR を実施するなど連携した情報発信を行い、認知度を高めるとともに北川村・県東部地域への訪問者を増加させる。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容

7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業

(事業番号 1-①)

事業名	交流促進・調査研究事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」は、これまでも世界で唯一「モネの庭」の名称を公式に名乗ることを許された施設として、モネの世界観を表現した庭の魅力や、世界中で高い人気を誇る印象派の画家であるモネに関する魅力を伝えてきたが、モネの日本芸術から受けた影響など、まだまだ知られていない魅力が数多くある。また、モネの世界観や精神を表現する庭作りにおいても、フランス・ジヴェルニーの気候や植生とは違った高知の環境の中での庭作りに日々試行錯誤しながら取り組んでいるところであるが、「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流をさらに強化することで、より魅力的な高知の自然環境を活かした庭作りを行うことができる。 このため、これまでの交流や研究を踏まえてさらに発展させ、フランスの「本家ジヴェルニーのモネの庭」の協力も得て以下の事業に取り組み、文化資源としてのさらなる魅力の増進と国内外からの来訪者の文化資源の理解深化を図る。 ①交流促進事業 「北川村モネの庭マルモッタン」の庭園管理者等をジヴェルニーに派遣し、現地の庭師とともに庭作りを行うことを通じて、モネの世界観を表現するための核である庭作りの知見やノウハウの獲得、庭作りのスキルアップを図る人材育成を行う。また、「本家ジヴェルニーのモネの庭」から庭園管理責任者等を招聘し、北川村の「モネの庭」において、季節や植物の成長などによる庭の変化に応じた庭作りや、魅力的な見せ方等について指導・助言を受ける。 これらの交流強化の取組により、高知の気候・環境・植物でモネの世界観を表現する北川村オリジナルの庭の魅力を向上させ続けていく。 また、「本家ジヴェルニーのモネの庭」からの庭園管理責任者等の招聘時には、地域住民との交流の場を設けることで、北川村に「もうひとつのモネの庭」があることの誇りや地域への愛着の醸成、日仏の文化交流の促進にもつなげる。 ②調査研究事業 現在、世界中から多くの観光客が訪れている「本家ジヴェルニーのモネの庭」の復元に深く携わった前庭園管理責任者の著書などの文献調査と、「本家ジヴェルニーのモネの庭」の調査・ヒアリングを行うことにより、 ・庭作りのプロセスや背景・哲学 ・モネの精神を活かした庭の維持 ・モネの生涯 ・日本美術・文化がモネ自身や作品に与えた影響 ・色彩・構図の変化等制作場所が作品作り・庭作りに与えた影響 ・「本家ジヴェルニーのモネの庭」の世界中から訪れる来園者に対しての取組などを研究する。 交流促進・調査研究による成果は各年度ごとに取りまとめ、来園者等にしっかりと分かりやすく伝わる形で各事業に反映させ、「北川村モネの庭マルモッタン」の大幅な魅力向上と、国内外からの来園者の文化資源の理解深化を実現する。 <各事業への反映>

	・展示・解説コーナーの展示パネルや解説文への反映、展示・解説コーナーに設置するタッチパネル式モニターのコンテンツの充実化（事業番号１－②） ・多言語デジタルオーディオガイドの音声ガイドコンテンツへの反映（事業番号２－①） ・通訳案内士等によるガイドツアーの解説内容の充実（事業番号２－②） ・映像コンテンツの表現への反映と映像内解説への活用（事業番号２－③） ・WEBサイトの掲載情報の拡充（事業番号５－①） ・モネの世界観を表現し続けるための庭作り ・「北川村モネの庭マルモッタン」の庭園管理者によるガイドツアーでの紹介
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和７年度～令和１１年度
継続見込	交流促進：強化した交流促進による成果等を踏まえて計画期間の終了以降の交流のあり方を検証し、継続して交流を実施する。 調査研究：令和７年度～９年度までの３年間調査研究を行った後は、その調査状況を踏まえて調査研究の自走化を図る。
アウトプット 目標	展示・解説への反映、多言語デジタルオーディオガイドへの反映、通訳案内士によるガイドツアーの解説への反映、映像コンテンツへの活用、WEBサイトの情報拡充
必要資金 調達方法	21.4 百万円（内訳：7.2 百万円（村費） 14.2 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号１－②）

事業名	展示・解説充実事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」やモネに関する情報を魅力的かつ深く伝えるために、ギャラリー棟２階の展示・解説コーナーの大幅なリニューアルを行い、モネの作品世界に入り込める庭と展示・解説コーナーの接点を強化し、来園者への庭での多様な楽しみ方の提供と、滞在の満足度の向上につなげる。 展示・解説は、多言語化を行うとともに、タッチパネル式モニターも導入し、庭やモネに関する解説だけでなく、北川村のゆずや幕末の志士・中岡慎太郎などの文化・歴史や、観光資源の紹介もあわせて行うこととし、周遊促進や地域消費拡大にもつなげる。 ①テーマ性・ストーリー性のある展示への見直し 現状は、モネの絵画（複製）や「本家ジヴェルニーのモネの庭」から寄贈されたもの、モネの庭フォトコンテスト入選作品などを展示しているが、テーマやストーリーを考慮した構成とはなっていないため、「北川村モネの庭マルモッタン」やモネに関することについて、テーマやストーリーを設定し、パネル等を用いて幅広い来訪者に向けた、より分かりやすい、見たくなるような展示とする。 ＜展示構成イメージ＞ (1) 導入コーナー ・北川村に「モネの庭」ができた経緯、「北川村モネの庭マルモッタン」の紹介 ・モネが作り上げたジヴェルニーの庭や、モネと日本文化との関わりなどモネに関することの紹介 ・モネの絵画（複製）の展示 (2) 「本家ジヴェルニーのモネの庭」ゆかりの品の展示コーナー ・モネがジヴェルニーに暮らしていた当時の写真 ・「本家ジヴェルニーのモネの庭」から寄贈されたものの展示 (3) モネや印象派への深い造詣のある日本画家・平松礼二氏の作品コーナー ・「北川村モネの庭マルモッタン」のために描いた「印象 北川村の池」など３作品の展示

	(4) タッチパネル式モニター ・モネやモネの庭に関する詳細な解説、北川村内や県東部地域の観光情報などのコンテンツ ②解説の充実 現状は解説の情報が少なく、多言語化もなされていないため、「北川村モネの庭マルモッタン」の魅力を十分に伝えできていない。解説を見た後に庭を巡ると「モネの庭」の理解が進み、より楽しむことができるよう、①により見直しを行う展示における解説や紹介を多言語で充実化させる。解説は、国内外からの幅広い来訪者に向けて簡潔で分かりやすく、親しみやすいものとする。なお、多言語化にあたっては、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って行う。 ③タッチパネル式モニターの導入 解説は、簡潔に分かりやすいものとする一方、「モネの庭」やモネのことを深く知りたい方など様々な来園者のニーズに応えることができるよう、タッチパネル式モニターを導入し、詳細な解説や展示スペースの制約により伝えきれない情報などを、来園者の関心や好みに応じて選択して見るようにする。タッチパネル式モニターで選択できる多言語でのコンテンツは、交流促進・調査研究（事業番号１－①）の成果も活用し、（株）きたがわジャルダンが継続して追加を行っていくことで、リピーターに対しても新たな情報が得られるようにする。 展示・解説の充実は、ギャラリー棟改修整備（事業番号６－①）と一体的に整備を行う。
実施主体	北川村、（株）きたがわジャルダン
実施時期	令和８年度、令和９年度
継続見込	整備完了後は継続して使用する。
アウトプット 目標	展示・解説の整備完了
必要資金 調達方法	26.2 百万円 （内訳：8.8 百万円（村費） 17.4 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
(事業番号１－③)	
事業名	水の庭リニューアル整備事業
事業内容	モネは、日本庭園からも影響を受けて自らが作り上げた「水の庭」で多くの作品を描いており、代表作のひとつ「睡蓮」が描かれた場所でもあることから、施設の中で「水の庭」の人気は高く、「北川村モネの庭マルモッタン」の「水の庭」では、モネがジヴェルニーで咲かせることを夢見た「青い睡蓮」が咲くこともあって睡蓮の咲く池を目当てに訪れる観光客は多い。 しかし、モネは「睡蓮」を描くために池周辺の樹木の配置や視角などを調整し園路を配置したが、「北川村モネの庭マルモッタン」の「水の庭」では、そのように鑑賞できる場所は限られ、現状では来園者が池を近くで鑑賞できるようにはなっていない。 これまでの「本家ジヴェルニーのモネの庭」との交流の中でも、多くの観光客を惹きつける「水の庭」をさらに魅力的にするためには、来園者が池を間近に見ることができるよう「水の庭」の園路を睡蓮の池に沿うようにした方がよいとのアドバイスを受けており、園路を睡蓮の池に近づけるリニューアルを行うことで、来園者が睡蓮の池をより近い場所で鑑賞できる環境を整える。 モネが「水の庭」で描いた「睡蓮」は300点以上にのぼり、構図としては、最初は太鼓橋や睡蓮を含む庭全体を描き、次に睡蓮を中心とした池にクローズアップし、最後には睡蓮と水面

	への反映を描くようになっており、この園路を池に近づけるリニューアルにより、来園者がモネの構図や作風の変化を実際に間近で体感できるようになる。 モネ自身が最高傑作と呼ぶモネが作り上げた庭は、モネが描いた絵画と同様にモネの優れた作品であり、「北川村モネの庭マルモッタン」の「水の庭」においても庭自体が作品であることから、庭の魅力を向上させるためのリニューアルは単なる庭整備ではなく、モネの作品世界の再現のための創作的な造成である。このため、モネの世界観の表現を中心的に担う「モネの庭」の庭園管理責任者の監修により、モネの世界観に沿ったデザインでリニューアルを行う。 このリニューアル整備とあわせて、構図や作風の変化などの「水の庭」をより楽しめるポイントを、展示・解説（事業番号１－②）や、多言語オーディオガイド（事業番号２－①）、通訳案内士によるガイドツアー（事業番号２－②）等で説明することにより、「水の庭」の大幅な魅力の増進と、来園者の文化的価値の理解深化・満足度向上が実現できる。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和８年度
継続見込	整備完了後は継続して使用する。
アウトプット 目標	水の庭の園路のリニューアル整備の完了
必要資金 調達方法	31 百万円 （内訳：10.4 百万円（村費） 20.6 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号 1－④）

事業名	花の庭リニューアル整備事業
事業内容	モネは 43 歳の頃ジヴェルニーに移住すると、まず「花の庭」の整備に乗り出し、庭には長方形の区画の「絵の具箱の花壇」を作り、現在では数百種もの花が咲き乱れている。「本家ジヴェルニーのモネの庭」からのアドバイスを受け、現状「北川村モネの庭マルモッタン」にはない、このモネが作り上げた長方形の花壇を設置するリニューアルを行い、花のバリエーションを増やすことで「花の庭」の魅力を向上させる。 また、ジヴェルニーにモネが住んでいた当時、「花の庭」と「水の庭」の間には門を作り、2つの庭の往来には門を通過しており、その門を模したものが「北川村モネの庭マルモッタン」にもある。「本家ジヴェルニーのモネの庭」では、この門の左右はバラで彩られており、「北川村モネの庭マルモッタン」の「花の庭」の門周辺にもジヴェルニーのようにバラ棚を設けることで、モネが暮らしていた当時の「花の庭」の状況を作り上げ、モネの世界観のさらなる具現化を図る。 モネ自身が最高傑作と呼ぶモネが作り上げた庭は、モネが描いた絵画と同様にモネの優れた作品であり、「北川村モネの庭マルモッタン」の「花の庭」においても庭自体が作品であることから、庭の魅力を向上させるためのリニューアルは単なる庭整備ではなく、モネの作品世界の再現のための創作的な造成である。このため、モネの世界観の表現を中心的に担う「モネの庭」の庭園管理責任者の監修により、モネの世界観に沿ったデザインでリニューアルを行う。 このリニューアル整備とあわせて、モネが生活していた頃の「花の庭」の特徴・状況などの「花の庭」をより楽しめるポイントを、展示・解説（事業番号 1－②）や、多言語オーディオガイド（事業番号 2－①）、通訳案内士によるガイドツアー（事業番号 2－②）等で説明することにより、「花の庭」の大幅な魅力の増進と、来園者の文化的価値の理解深化・満足度向上が実現できる。

実施主体	北川村、(株) きたがわジャルダン
実施時期	令和7年度
継続見込	整備完了後は継続して使用する。
アウトプット 目標	花の庭のリニューアル整備の完了
必要資金 調達方法	10 百万円 (内訳: 3.4 百万円 (村費) 6.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑤)

事業名	自然の森・遊びの森リニューアル整備事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」では、開園当初多くの方に訪れていただこうと、高知の自然そのままの姿が息づく「自然の森」や、家族連れも楽しんでいただける遊具などを設置した「遊びの森」を整備してきたが、「北川村モネの庭マルモッタン」のコンセプトを来園者に理解していただくためには、このエリアの役割を充実させる必要がある。 「自然の森」、「遊びの森」は、「水の庭」と「ボルディゲラの庭」をつなぐ場所にあり、フランス・ジヴェルニーの「モネの庭」を再現している「水の庭」から北川村の自然あふれる「自然の森」や、木々を活かした森のようなエリアとなる「遊びの森」を抜けると、モネが旅した地中海沿岸を感じさせる明るい景色が広がる「ボルディゲラの庭」にたどり着くというストーリー性の創出を念頭に、「自然の森」では遊歩道をバリアフリー化し、車いす利用の方なども楽しんでいただけるようリニューアルする。 また、「遊びの森」では北川村の自然に親しめる、木々に囲まれた森のようなエリアへとリニューアルし、学校の課外学習や遠足で子ども達に多く訪れていただけるようにするとともに、広大で高低差もある園内を来園者が疲れることなく散策できるようにするために木陰のある休憩場所を設け、文化観光の推進において求められている幅広い来園者の期待に応えることに加え、園内の滞在時間の延長につなげる。 「北川村モネの庭マルモッタン」の施設のなかで「水の庭」や「ボルディゲラの庭」は、北川村の自然や植生を活かしてモネの世界観を再現したエリアであり、「自然の森」、「遊びの森」は、モネの世界を形作っている北川村の自然そのものに触れることのできるエリアとなっている。このエリアの魅力を向上させるリニューアルは単なる整備ではなく、モネの世界を形作る北川村の自然をより楽しんでいただくようにするとともに、モネの作品世界に入り込めるそれぞれの庭の魅力の増進にもつなげる創作的な造成である。このため、モネの世界観の表現を担う「モネの庭」の庭園管理責任者の監修により、「北川村モネの庭マルモッタン」の施設全体としての魅力が高まるデザインでリニューアルを行う。 このリニューアル整備とあわせて、「水の庭」、「花の庭」、「ボルディゲラの庭」の魅力の源である北川村の自然の魅力を、多言語オーディオガイド (事業番号 2-①)、通訳案内士によるガイドツアー (事業番号 2-②)、WEB サイトの掲載情報拡充 (事業番号 5-①) 等で紹介することにより、施設内の回遊性を高めるとともに満足度向上につなげる。
実施主体	北川村、(株) きたがわジャルダン
実施時期	令和10年度、令和11年度
継続見込	整備完了後は継続して使用する。
アウトプット 目標	自然の森・遊びの森のリニューアル整備の完了
必要資金 調達方法	53 百万円 (内訳: 17.7 百万円 (村費) 35.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑥)

事業名	早朝や夜間の時間帯を活用したプログラム・イベント実施事業【自主事業】
事業内容	早朝や夜間など特別な時間帯にプログラムやイベントを実施することで、通常の開園時間では得られないモネの庭の魅力を提供する。 早朝や夜間でのプログラム・イベント実施は、地域内での宿泊や飲食など滞在時間を増加させることができるため、地域消費の拡大にもつながる。また、北川村だけでなく、県東部地域の観光情報等をイベントで提供することで、地域内周遊にもつなげていく。 <実施例> 早朝：モーニングセット付き早朝スケッチ 夕方：夕方撮影会 夜：ライトアップされた庭が楽しめるナイトイベント（閑散期に開催） 「北川村モネの庭マルモッタン」指定管理者の自己資金により3年間、ナイトイベントを中心としたプログラムやイベントを試行することで特別な時間帯を活用した事業モデルを確立し、4年目以降は自走化により、閑散期の地域への誘客・周遊対策とするだけでなく、季節ごとの様々な魅力を楽しんでいただけるようなプログラムやイベントの開催を検討し実施していく。
実施主体	(株) きたがわジャルダン
実施時期	令和7年度～令和9年度
継続見込	継続して特別な時間帯を活用したプログラムやイベントを開催する。
アウトプット 目標	毎年度1回以上の特別な時間帯のプログラムやイベントの開催
必要資金 調達方法	5.4百万円（内訳：5.4百万円（(株) きたがわジャルダン自己資金）

(事業番号 1-⑦)

事業名	北川村温泉ゆずの宿での「モネの庭」の魅力提供事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」入園券の販売も行っている北川村内の宿泊施設「北川村温泉ゆずの宿」の宿泊客や日帰り入浴客の「モネの庭」への誘導を図るために、ロビーに「モネの庭」の紹介と「モネの庭」の写真集、モネに関する画集・書籍などを配置した「モネの庭」コーナーを設ける。また、客室にもモネに関する書籍等を配置する。 このように「モネの庭」を訪れる方が事前に「モネの庭」の魅力に触れていただける機会を作ることで、庭を訪れた際の文化的価値の理解深化を促す。 あわせて、土産物販売コーナーで「モネの庭」オリジナル商品を販売することで消費拡大にもつなげる。
実施主体	北川村、(株) きたがわジャルダン
実施時期	令和7年度
継続見込	継続して北川村温泉ゆずの宿で「モネの庭」の魅力提供を行う。
アウトプット 目標	北川村温泉ゆずの宿への「モネの庭」コーナーの設置
必要資金 調達方法	1.3百万円（内訳：0.5百万円（村費） 0.8百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号2-①)

事業名	多言語デジタルオーディオガイド導入事業
事業内容	来園者に対して、「北川村モネの庭マルモッタン」の文化的価値の理解を深めていただくためにデジタルオーディオガイドを導入する。スマートフォンのようにタッチ操作で利用できる機器で、音声だけでなく画像やテキストも表示できるようにすることで、来園者の理解促進を図る。また、多言語対応をすることで、国外からの来訪者にも利用していただけるものとする。 音声ガイドコンテンツは、交流促進・調査研究（事業番号1-①）の成果も活用して作成し、多言語化にあたっては、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」を参照するとともに、ネイティブが原稿を作成するなど、ネイティブにとって自然な母国語の表現で理解できるものとする。 デジタルオーディオガイドは、個人客だけでなく団体客でも利用できるよう32台（1ユニット16台×2）を導入し、高知新港に寄港するクルーズ船からのバスでのオプションツアーなど、団体であっても来園後に自由行動を取る方にも対応できるようにすることでオーディオガイドの利用促進を図る。 <多言語デジタルオーディオガイドの音声ガイドコンテンツ案> ①「北川村モネの庭マルモッタン」の紹介 ②クロード・モネについて ③モネが庭に傾けた情熱 ④水の庭について ⑤花の庭について ⑥ボルディゲラの庭について ⑦北川村について
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和8年度
継続見込	本計画の実施により増加した収益の一部をランニングコストに充て継続して活用する。
アウトプット目標	多言語デジタルオーディオガイド導入・提供（対応言語：日・英）
必要資金 調達方法	11.5百万円（内訳：3.9百万円（村費） 7.6百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号2-②)

事業名	通訳案内士等によるガイドツアー造成事業
事業内容	現在、「北川村モネの庭マルモッタン」では、季節ごとに庭園管理者による園内のガイドツアーを開催しているが、本来業務である庭づくりや庭園管理があり、常に開催できる状況ではなく、来園者が求めるニーズに対応できていない。 このため、高知県内で活動している通訳案内士等と連携体制を構築し、国内外からの来園者に、モネの世界観を高知の環境や自然、植生で表現した庭の魅力を伝え、深い理解を提供するために、通訳案内士等によるガイドツアーを造成する。ガイドによる解説は、交流促進・調査研究（事業番号1-①）による成果も活用して行う。 ガイドツアーを実施する通訳案内士や地域ガイドには、来園者に対して「モネの庭」の文化的価値を分かりやすく伝えることができるよう、「モネの庭」やモネに関しての知識を習得する講習を開催する。

	なお、ガイドツアーを実施する地域通訳案内士等の入園料は無料とする。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和9年度
継続見込	造成後は継続してガイドツアーを提供する。
アウトプット 目標	インバウンド向け（英語）と日本人向けの2つのガイドツアーを造成
必要資金 調達方法	3百万円（内訳：1百万円（村費） 2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号2－③）

事業名	映像コンテンツ制作事業																			
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」やモネの様々な魅力を伝えとともに、文化資源をより深く理解していただくことを目指した映像コンテンツを制作する。「北川村モネの庭マルモッタン」は、モネの世界観を表現した庭には人工物は極力設置しないという施設の特性上、庭での展示・解説は最小限にとどめていることから、映像コンテンツを制作し、提供することは、 ・「北川村モネの庭マルモッタン」やモネのことをあまり知らない方に対しての魅力の伝達 ・「北川村モネの庭マルモッタン」やモネのことを知っている方に対してのさらなる理解の促進 ・天候が悪い時に訪れた方や、身体的な理由であまり庭を回ることができない方が視聴することによる満足度の向上 につながる。 交流促進・調査研究（事業番号1－①）の成果も活用して制作する映像コンテンツは以下の8本を予定しており、情報伝達量が文字よりも圧倒的に多い映像を用いて「北川村モネの庭マルモッタン」の文化資源の魅力増進と文化資源の理解深化を図る。また、国外からの来園者にも対応できるよう字幕を入れて多言語化を図る。多言語化にあたっては、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿ったものとする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>タイトル（案）</th><th>概要（案）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td><td>「北川村モネの庭マルモッタン」が表現するモネの世界観</td><td>北川村の「モネの庭」は、高知の環境や植生でどのようにジヴェルニーの「モネの庭」やモネの世界観を表現しているのかを伝えとともに、北川村とジヴェルニーの庭の映像を用い両施設の比較や同一性なども理解していただく。 【想定映像時間：10～20分程度】</td></tr> <tr> <td>②</td><td>モネの光と連作からのインスピレーション</td><td>光の画家とも呼ばれたモネが表現として重視した光と、特定の画題を異なる季節や時間で複数枚描いた連作に焦点を当て、モネの世界観を表現した北川村の「モネの庭」の季節や時間ごとに移り変わる美しさや魅力を、モネの光と連作をイメージさせる映像で伝える。プロモーション動画としても活用する。 【想定映像時間：5～10分程度】</td></tr> <tr> <td>③</td><td>クロード・モネとは</td><td>モネが生涯の半分を過ごしたジヴェルニーの庭を中心に、構図や作風の移り変わりや、ボルディグエラ訪問等の作品制作の旅など、モネの生涯を辿り、モネはどのような人物であったのかが分かるようにし、より深く、モネや北川村の「モネの庭」を理解していただく。 【想定映像時間：15～20分程度】</td></tr> <tr> <td>④</td><td>モネと日本文化の関わり</td><td>太鼓橋や藤棚、柳、竹などが配置され日本を感じさせるジヴェルニーの水の庭や、モネが収集した浮世絵、「富岳三十六景」からも影響を受けたと言われる「連作」など、モネが影響を受けた日本美術や文化との関りに特化した映像を制作し、魅力の増進と文化理解を促す。 【想定映像時間：10～20分程度】</td></tr> <tr> <td>⑤</td><td>花の庭</td><td>色彩の美しさを楽しんでいただくためにあえて名札を付けず、花をパレットの絵の具に例えるようにモネの世界観を表現する庭の楽しみ方や季節ごとの魅力を伝え、「花の庭」を詳細に理解できるようにする。</td></tr> </tbody> </table>			タイトル（案）	概要（案）	①	「北川村モネの庭マルモッタン」が表現するモネの世界観	北川村の「モネの庭」は、高知の環境や植生でどのようにジヴェルニーの「モネの庭」やモネの世界観を表現しているのかを伝えとともに、北川村とジヴェルニーの庭の映像を用い両施設の比較や同一性なども理解していただく。 【想定映像時間：10～20分程度】	②	モネの光と連作からのインスピレーション	光の画家とも呼ばれたモネが表現として重視した光と、特定の画題を異なる季節や時間で複数枚描いた連作に焦点を当て、モネの世界観を表現した北川村の「モネの庭」の季節や時間ごとに移り変わる美しさや魅力を、モネの光と連作をイメージさせる映像で伝える。プロモーション動画としても活用する。 【想定映像時間：5～10分程度】	③	クロード・モネとは	モネが生涯の半分を過ごしたジヴェルニーの庭を中心に、構図や作風の移り変わりや、ボルディグエラ訪問等の作品制作の旅など、モネの生涯を辿り、モネはどのような人物であったのかが分かるようにし、より深く、モネや北川村の「モネの庭」を理解していただく。 【想定映像時間：15～20分程度】	④	モネと日本文化の関わり	太鼓橋や藤棚、柳、竹などが配置され日本を感じさせるジヴェルニーの水の庭や、モネが収集した浮世絵、「富岳三十六景」からも影響を受けたと言われる「連作」など、モネが影響を受けた日本美術や文化との関りに特化した映像を制作し、魅力の増進と文化理解を促す。 【想定映像時間：10～20分程度】	⑤	花の庭	色彩の美しさを楽しんでいただくためにあえて名札を付けず、花をパレットの絵の具に例えるようにモネの世界観を表現する庭の楽しみ方や季節ごとの魅力を伝え、「花の庭」を詳細に理解できるようにする。
	タイトル（案）	概要（案）																		
①	「北川村モネの庭マルモッタン」が表現するモネの世界観	北川村の「モネの庭」は、高知の環境や植生でどのようにジヴェルニーの「モネの庭」やモネの世界観を表現しているのかを伝えとともに、北川村とジヴェルニーの庭の映像を用い両施設の比較や同一性なども理解していただく。 【想定映像時間：10～20分程度】																		
②	モネの光と連作からのインスピレーション	光の画家とも呼ばれたモネが表現として重視した光と、特定の画題を異なる季節や時間で複数枚描いた連作に焦点を当て、モネの世界観を表現した北川村の「モネの庭」の季節や時間ごとに移り変わる美しさや魅力を、モネの光と連作をイメージさせる映像で伝える。プロモーション動画としても活用する。 【想定映像時間：5～10分程度】																		
③	クロード・モネとは	モネが生涯の半分を過ごしたジヴェルニーの庭を中心に、構図や作風の移り変わりや、ボルディグエラ訪問等の作品制作の旅など、モネの生涯を辿り、モネはどのような人物であったのかが分かるようにし、より深く、モネや北川村の「モネの庭」を理解していただく。 【想定映像時間：15～20分程度】																		
④	モネと日本文化の関わり	太鼓橋や藤棚、柳、竹などが配置され日本を感じさせるジヴェルニーの水の庭や、モネが収集した浮世絵、「富岳三十六景」からも影響を受けたと言われる「連作」など、モネが影響を受けた日本美術や文化との関りに特化した映像を制作し、魅力の増進と文化理解を促す。 【想定映像時間：10～20分程度】																		
⑤	花の庭	色彩の美しさを楽しんでいただくためにあえて名札を付けず、花をパレットの絵の具に例えるようにモネの世界観を表現する庭の楽しみ方や季節ごとの魅力を伝え、「花の庭」を詳細に理解できるようにする。																		

			【想定映像時間：10～15分程度】
	⑥	水の庭	モネの代表作のひとつ「睡蓮」が描かれたジヴェルニーの「水の庭」を再現し、モネがジヴェルニーで咲かせることができなかった青い睡蓮が咲く北川村の「水の庭」の魅力を深掘りし、北川村の「モネの庭」が「水の庭」をどのように表現し、維持しているのかを詳細に理解できるようにする。 【想定映像時間：10～15分程度】
	⑦	ボルディゲラの庭	ジヴェルニーの庭園管理責任者の発案から生まれた「本家ジヴェルニーのモネの庭」にもない、モネの作品作りに影響を与えた地中海の風景を日本庭園の要素も盛り込み高知の自然のなかで表現する北川村オリジナルの庭の魅力を、ボルディゲラの映像も用いて詳細に理解できるようにする。 【想定映像時間：10～15分程度】
	⑧	もうひとつのモネの庭・「北川村モネの庭マルモッタン」	世界で唯一「モネの庭」の名称を名乗ることを許された施設が北川村に生まれた経緯や、文化振興・観光振興・地域振興への寄与について、村長やモネの庭関係者へのインタビューにより紹介する映像を制作し、「モネの庭」が地域にどのような好影響を及ぼしているのかを伝える。 【想定映像時間：15～20分程度】
制作した映像コンテンツは、本計画で整備するシアタールーム（事業番号6-①）で常時視聴できるようにするとともに、ダイジェスト版のWEBサイトへの掲載などを行う。			
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン		
実施時期	令和7年度～令和10年度		
継続見込	計画終了後も継続して活用する。		
アウトプット目標	令和8年度 映像コンテンツ3本制作 令和9年度 映像コンテンツ3本制作 令和10年度 映像コンテンツ2本制作		
必要資金 調達方法	20百万円（内訳：6.7百万円（村費） 13.3百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。		

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

（事業番号3-①）

事業名	園内案内サイン多言語化事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」に現在設置されている園内案内サインは、英語併記がなされているものと、日本語表示のみのものが混在している。また、整備時期によるデザインや表現の違いなども見られる。 このため、園内に設置している案内サインを、統一されたデザインで分かりやすい英語併記の案内サインとすることで、利便性を向上させ、外国からの来園者がスムーズに園内を利用できるようにする。多言語案内サインの整備は、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿うとともに、庭の景観に十分に配慮して行う。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和8年度
継続見込	整備完了後は継続して活用する。
アウトプット目標	園内案内サイン整備完了
必要資金 調達方法	4.8百万円（内訳：1.6百万円（村費） 3.2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 3-②)

事業名	園内放送設備拡充事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」の最奥にある「ポルディゲラの庭」では、現在、園内放送が聞こえづらい状況であり、大雨や雷などの悪天候や、大規模地震などの緊急時の放送を届けることができるよう放送設備の拡充を行い、園内のどこにいても安心して楽しめる環境を実現する。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和7年度
継続見込	整備完了後は継続して活用する。
アウトプット 目標	園内放送設備の拡充完了
必要資金 調達方法	0.6百万円 (内訳: 0.2百万円(村費) 0.4百万円(文化芸術振興費補助金(文化庁)) ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 3-③)

事業名	アクセス情報提供強化事業
事業内容	車を使わない旅行者や外国人の個人旅行者が高知観光の中心である高知市から「モネの庭」を訪れるには、JR四国の路線から直結している土佐くろしお鉄道の列車を利用し、終点の奈半利駅下車後、北川村営バスに乗ればアクセスできる。また、高知空港から訪れるには、空港乗合タクシーで土佐くろしお鉄道のいち駅まで移動、そこから奈半利駅まで列車を利用し、下車後に北川村営バスに乗ればアクセスできる。このように、アクセス手段はある一定整っているが、その情報量は少なく、あまり伝わっていない。 また、奈半利駅で列車を降りたあとに「北川村モネの庭マルモッタン」へ移動するための手段である北川村営バスを利用する方のために、奈半利駅ロータリーの停留所にはバスに乗れば「モネの庭」を訪れることができることを目立つように表示しているが、時刻表等は多言語化されていない。 そして、奈半利駅にはレンタサイクルがあり、「モネの庭」までの約3kmの道のりを自転車を使えば容易に訪れることができるが、あまり知られておらず、レンタサイクルの利用は少ない。 このため、 ・一次交通と二次交通を使って「モネの庭」にアクセスする情報を、「モネの庭」WEBサイト、北川村文化観光公社WEBサイト、高知県東部観光協議会WEBサイトに詳しく掲載する ・奈半利駅ロータリーのバス案内の多言語化を行う ことで、国内外からの来訪者が容易に、スムーズに「モネの庭」を訪れることができるようにする。 これらの取組により、旅行者が旅マエに詳しいアクセス情報を取得できる機会を充実させ、現地を訪れた際には移動の容易化が図られることで、これまでアクセス手段が分からないために訪れることができなかった旅行客の獲得につなげる。 詳細なアクセス情報のWEBサイトへの掲載にあたっては、「モネの庭」のみへのアクセスを詳しく伝えるだけでなく、北川村内での周遊や、県東部地域での周遊にもつながるような情報の掲載を行う。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン、(一社)北川村文化観光公社、(一社)高知県東部観光協議会
実施時期	令和8年度
継続見込	バス案内の多言語化及びWEBサイトへのアクセス情報掲載完了後は継続して活用する。

アウトプット 目標	奈半利駅ロータリーの北川村営バス案内の多言語化の完了 モネの庭 WEB サイト、北川村文化観光公社 WEB サイト、高知県東部観光協議会 WEB サイトへの アクセス情報の掲載完了
必要資金 調達方法	1 百万円 （内訳：0.4 百万円（村費） 0.6 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 3-④)

事業名	高知市内及び高知空港からの周遊促進事業
事業内容	高知観光の中心であり、起点ともなる高知市内及び高知空港から「北川村モネの庭マルモッタン」への誘客と、北川村内の文化観光施設、県東部地域の観光スポット、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産構成文化財への周遊を促進する取組を実施する。 ①レンタカー会社と連携したレンタカー利用者の北川村への周遊企画 高知空港でレンタカーを利用する旅行者に対して、北川村内の文化観光施設の特典クーポンが付いたチラシを配布することで、レンタカー利用者の北川村への誘客と村内での周遊促進を図る。配布する特典クーポン付きのチラシには、高知空港から北川村までのルート上にある、県東部地域の観光スポットや、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産構成文化財等の情報も掲載し、県東部地域での周遊にもつなげる。 ＜特典を提供する北川村内施設・特典内容（案）＞（特典は自己資金により提供） ・北川村モネの庭マルモッタン：カフェでのドリンクサービス ・中岡慎太郎館：入館料割引 ・北川村温泉ゆずの宿：ゆずなど地域特産品のプレゼント ②土佐くろしお鉄道による「北川村モネの庭マルモッタン」への周遊企画【自主事業】 主に車を利用しない旅行者に対して、高知観光の中心である高知市から列車を利用して「モネの庭」を訪れる旅行商品を企画・販売することで、「モネの庭」への誘客の促進と土佐くろしお鉄道の列車利用の促進を図る。 ＜列車利用の旅行商品（案）＞ 高知駅から「モネの庭」最寄りの奈半利駅までの往復乗車料＋奈半利駅から「モネの庭」までの北川村営バスの乗車料、「モネの庭」入園料、「モネの庭」カフェでのランチ代がセットになった商品 これらの周遊企画のほか、日本遺産中芸ゆずと森林鉄道ガイド会が行うガイドツアーで、日本遺産構成文化財とともに「モネの庭」にも立ち寄るツアーを造成することを検討するなど、県東部地域の観光資源・文化資源間の周遊を促していく。
実施主体	北川村、（一社）北川村文化観光公社、（一社）高知県東部観光協議会、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会、土佐くろしお鉄道（株）
実施時期	令和 8 年度
継続見込	誘客・周遊企画及び旅行商品造成後は、自己資金で継続して実施する。
アウトプット 目標	（一社）北川村文化観光公社による誘客・周遊企画の実施 土佐くろしお鉄道（株）による「モネの庭」を訪れる旅行商品の企画・販売
必要資金 調達方法	0.8 百万円 （内訳：0.2 百万円（村費） 0.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） 0.3 百万円（土佐くろしお鉄道（株）自己資金） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号 4-①)

事業名	ショップリニューアル事業
事業内容	「北川村モネの庭マルモッタン」来園者及びショップ来訪者の購入意欲を高めるために、ギャラリー棟にあるショップの魅力をアップさせるリニューアルを行う。 ショップのリニューアルにあたっては、フランス・オランジュリー美術館に展示されている大装飾画を思わせる「睡蓮」の複製画や、モネがジヴェルニーに暮らしていた頃の写真などが飾られている「本家ジヴェルニーのモネの庭」のショップを参考にし、壁へのモネの絵画（複製）による装飾や、什器のリニューアル、購入したくなるような商品配置、購入しやすい導線整備を行い、「北川村モネの庭マルモッタン」のショップでもモネの世界観を楽しんでいただけるようにする。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和10年度
継続見込	リニューアル完了後は継続して活用する。
アウトプット 目標	ショップリニューアルの完了
必要資金 調達方法	11百万円（内訳：3.7百万円（村費） 7.3百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 4-②)

事業名	ボルディゲラの庭・カフェ利用促進事業
事業内容	「ボルディゲラの庭」は、施設内の最も奥に位置し、遠くに太平洋と海岸沿いの街を眺めることのできる景色が、モネが地中海沿岸のボルディゲラで描いた風景と似ていることから、「水の庭」など園内を長時間に渡って鑑賞した来園者が休憩のために、「ボルディゲラの庭」内の「リヴィエラの小屋」を利用することが多い。 しかし、カフェを併設している「リヴィエラの小屋」のメニュー等は多言語化されていないなど小屋内の表示は利用者にとって分かりやすいものとなっていない。このため、休憩や、モネが作品を描いたと思わせる景色を見るために小屋を訪れた方の利便性向上と、カフェ利用促進を目指した、小屋内表示の多言語化を行う。多言語化は、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿って行う。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和9年度
継続見込	リニューアル後は継続して活用する。
アウトプット 目標	多言語化等リニューアルの完了
必要資金 調達方法	0.5百万円（内訳：0.2百万円（村費） 0.3百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号 5-①)

事業名	WEBサイト拡充事業
事業内容	現在のWEBサイトには英語・フランス語ページがあり、欧米豪から訪れる観光客には対応できているが、増加傾向にある高松空港・松山空港利用の台湾・韓国からの個人客、高知・台湾を結ぶ定期チャーター便を使って訪れる台湾からの団体客には対応できていないため、台湾・

	韓国の方にもアプローチできるよう WEB サイトの多言語化拡充を行う。なお、多言語化は、観光庁「HOW TO 多言語解説文整備」に沿ったものとする。 また、交流促進・調査研究（事業番号 1－①）により得られた成果の掲載や、制作した映像コンテンツ（事業番号 2－③）を WEB 上でも視聴できるようにするなどサイト内の情報の充実化を図る。 これらの拡充を来園のきっかけとしていただき来園者の増加につなげるとともに、来園時に「北川村モネの庭マルモッタン」をより深く楽しんでいただくことにつなげる。 ＜拡充の予定＞ 令和 8 年度：多言語化拡充（繁体語、韓国語ページ追加） 令和 11 年度：情報拡充（交流促進・調査研究の情報追加、映像追加等）
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和 8 年度、令和 11 年度
継続見込	(株)きたがわジャルダンにおいて随時情報の更新・追加を行う。
アウトプット 目標	WEB サイトの多言語化拡充（繁体語・韓国語）・情報拡充の完了
必要資金 調達方法	2 百万円 （内訳：0.7 百万円（村費） 1.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 5－②)

事業名	情報発信強化事業
事業内容	国内外に向けて「北川村モネの庭マルモッタン」の魅力を複数の情報発信施策を組み合わせで発信することで、認知度向上と誘客の促進を図る。情報発信においては、「モネの庭」と北川村内の観光スポット、県東部地域の観光スポット、日本遺産の構成文化財等を一体として発信し、地域内の文化・観光資源の認知度向上・地域内周遊にもつなげる。 ①連携した PR 首都圏・関西圏での認知度の向上と来園者の増加を図るため、地域連携 DMO である（一社）高知県東部観光協議会、（一社）北川村文化観光公社、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会と連携した、ツーリズム EXPO ジャパン（2024 年度来場者約 18 万人）への参加、大阪にある高知県アンテナショップを活用した PR などによる情報発信を行う。 ②美術雑誌、ライフスタイル誌掲載による情報発信 モネに関心のある層や、「北川村モネの庭マルモッタン」に多く訪れている女性層にアプローチするため、美術雑誌及びライフスタイル雑誌でのタイアップ記事掲載を行う。 ③インバウンド向け PR 高知県への来訪が最も多い台湾の旅行客をターゲットとして、「台北国際旅行博」（2024 年度来場者約 36 万人）でのブース出展等による PR を行い、台湾での認知度向上と来園者の増加につなげる。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン、（一社）北川村文化観光公社、（一社）高知県東部観光協議会、中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会
実施時期	令和 8 年度～令和 11 年度
継続見込	継続して関係団体と連携した情報発信を実施するとともに、本計画の実施により増加した収益の一部を使った雑誌掲載や旅行博出展を検討・実施する。

アウトプット 目標	首都圏・関西圏でのPR：4回（令和8年度～令和11年度） 美術雑誌・ライフスタイル誌への記事掲載：2媒体（令和8年度） 台湾向けのPR：1回（令和9年度）
必要資金 調達方法	6百万円（内訳：2百万円（村費） 4百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

（事業番号6-①）

事業名	ギャラリー棟改修整備事業
事業内容	展示・解説の充実（事業番号1-②）と、映像コンテンツ制作（事業番号2-③）に関連したギャラリー棟の改修整備を行い、より魅力的な施設へとリニューアルする。 現在のギャラリー棟1階の休憩スペース・書籍閲覧スペースをシアタールーム・ライブラリースペースへと改修し、本計画で制作する映像コンテンツ（事業番号2-③）を来園者が常時視聴できるようにするとともに、モネに関する書籍等を読みやすい環境にすることで「北川村モネの庭マルモッタン」の魅力の増進と来園者の文化的価値の理解深化を図る。新たに整備するシアタールーム・ライブラリースペースはモネの家や庭をイメージさせる空間作りを行う。 ギャラリー棟2階に位置する展示・解説コーナーでは、テーマ性・ストーリー性のある展示への見直しと、解説の充実、タッチパネル式モニターの導入によるリニューアル（事業番号1-②）を行うこととしており、この展示・解説コーナーの充実を図る整備と、ギャラリー棟1階のシアタールーム・ライブラリースペースの整備により改修が必要となるギャラリー棟外装部分の整備を一体的に行う。 これまでは、ギャラリー棟2階の展示・解説コーナーと、1階の休憩スペース・書籍閲覧スペースとの連動性はなかったが、本事業の改修整備により、2階の充実化が図られる展示・解説で文字で得た情報を、1階のシアタールームで映像として見ることができたり、ライブラリースペースでより詳細に知ることができるようになるなど、連動性が強化され、来園者の文化的資源の理解と満足度が飛躍的に向上する。
実施主体	北川村、（株）きたがわジャルダン
実施時期	令和8年度、令和9年度
継続見込	整備完了後は継続して使用する。
アウトプット 目標	ギャラリー棟のリニューアル整備完了
必要資金 調達方法	46.8百万円（内訳：15.6百万円（村費） 31.2百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

（事業番号6-②）

事業名	利便性向上・バリアフリー対応強化事業
事業内容	①利便性向上・バリアフリー対応のための駐車場整備 現状、GWや夏休み、秋の行楽シーズンの週末等の多客期においては駐車スペースが不足し、駐車するまで時間がかかることによる来園者の満足度低下のみならず、年間500名程度の来園者の取りこぼしが生じている。 また、本計画の展示・解説の充実（事業番号1-②）、水の庭リニューアル整備（事業番号1-③）、花の庭リニューアル整備（事業番号1-④）により、施設の魅力が大きく向上すると、車での来園者も増加する。

	このため、これらの事業（事業番号１－②、１－③、１－④）に関連して、メインの第一駐車場を現在の 86 台から 30 台程度多く駐車できるよう駐車区画の改善等のリニューアル整備を行うとともに、新たに第二駐車場、第三駐車場を整備し、舗装・駐車枠の明示により 50 台程度駐車できるようにする。この駐車場整備により、来園者の利便性向上・満足度向上と来園者の増加を図る。 また、第一駐車場の障がい者用駐車スペースの拡充と利用しやすい場所への設置を行うことでバリアフリー対応を強化する。 ②利便性向上・バリアフリー対応のためのギャラリー棟へのエレベーター設置 現在、入園者が「花の庭」やカフェを訪れる際は、２階建てのギャラリー棟の２階入口から入り、階段を降りて１階から外に出て「花の庭」やカフェに至る導線になっており、ギャラリー棟１階にあるショップ利用時にも階段を使う必要があるが、ギャラリー棟には階段のみでエレベーターが設置されておらず、車いす利用の方やベビーカーに小さい子どもを乗せた家族連れなどには、大きく遠回りとなるスロープの利用を案内するしかなく、施設内の移動に関して不便・負担をかけている。 また、本計画の展示・解説の充実（事業番号１－②）、水の庭リニューアル整備（事業番号１－③）、花の庭リニューアル整備（事業番号１－④）により、施設の魅力が大きく向上すると、身体に障がいを持っている方や高齢者等も含む幅広い層の来園者が訪れるようになる。 このため、ギャラリー棟にエレベーターを設置し、幅広い来園者が負担なく快適に楽しめる環境を実現する。 ギャラリー棟へのエレベーター設置は、展示・解説の充実（事業番号１－②）、ギャラリー棟改修整備（事業番号６－①）と一体的に整備を行う。
実施主体	北川村、(株)きたがわジャルダン
実施時期	令和７年度～令和９年度
継続見込	整備完了後は継続して活用する。
アウトプット 目標	駐車場の整備完了（令和７年度） ギャラリー棟へのエレベーター設置完了（令和９年度）
必要資金 調達方法	49.8 百万円 （内訳：16.6 百万円（村費） 33.2 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁）） ※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条（ 法の特例）
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和7年度	45.9 百万円	事業番号 1－①	5.7 百万円	1.9 百万円 (村費) 3.8 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－④	10 百万円	3.4 百万円 (村費) 6.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－⑥	1.8 百万円	1.8 百万円 ((株) きたがわジャルダン自己資金)
		事業番号 1－⑦	1.3 百万円	0.5 百万円 (村費) 0.8 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 2－③	1.5 百万円	0.5 百万円 (村費) 1 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 3－②	0.6 百万円	0.2 百万円 (村費) 0.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 6－②	25 百万円	8.4 百万円 (村費) 16.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
令和8年度	70.9 百万円	事業番号 1－①	6.1 百万円	2.1 百万円 (村費) 4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－②	2 百万円	0.7 百万円 (村費) 1.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－③	31 百万円	10.4 百万円 (村費) 20.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－⑥	1.8 百万円	1.8 百万円 ((株) きたがわジャルダン自己資金)
		事業番号 2－①	11.5 百万円	3.9 百万円 (村費) 7.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 2－③	6.5 百万円	2.2 百万円 (村費) 4.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 3－①	4.8 百万円	1.6 百万円 (村費) 3.2 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 3－③	1 百万円	0.4 百万円 (村費) 0.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 3－④	0.8 百万円	0.2 百万円 (村費) 0.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁)) 0.3 百万円 (土佐くろしお鉄道 (株) 自己資金)
		事業番号 5－①	0.7 百万円	0.3 百万円 (村費) 0.4 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 5－②	2.5 百万円	0.9 百万円 (村費) 1.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 6－①	1.4 百万円	0.5 百万円 (村費) 0.9 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 6－②	0.8 百万円	0.3 百万円 (村費) 0.5 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－①	4.5 百万円	1.5 百万円 (村費) 3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
令和9年度	112.1 百万円	事業番号 1－②	24.2 百万円	8.1 百万円 (村費) 16.1 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 1－⑥	1.8 百万円	1.8 百万円 ((株) きたがわジャルダン自己資金)
		事業番号 2－②	3 百万円	1 百万円 (村費) 2 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 2－③	6.2 百万円	2.1 百万円 (村費) 4.1 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 4－②	0.5 百万円	0.2 百万円 (村費) 0.3 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 5－②	2.5 百万円	0.9 百万円 (村費) 1.6 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 6－①	45.4 百万円	15.2 百万円 (村費) 30.2 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))
		事業番号 6－②	24 百万円	8 百万円 (村費) 16 百万円 (文化芸術振興費補助金 (文化庁))

令和 10 年度	51.4 百万円	事業番号 1－①	2.1 百万円	0.7 百万円（村費）	1.4 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑤	32 百万円	10.7 百万円（村費）	21.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 2－③	5.8 百万円	2 百万円（村費）	3.8 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 4－①	11 百万円	3.7 百万円（村費）	7.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 5－②	0.5 百万円	0.2 百万円（村費）	0.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
令和 11 年度	25.8 百万円	事業番号 1－①	3 百万円	1 百万円（村費）	2 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 1－⑤	21 百万円	7 百万円（村費）	14 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 5－①	1.3 百万円	0.5 百万円（村費）	0.8 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
		事業番号 5－②	0.5 百万円	0.2 百万円（村費）	0.3 百万円（文化芸術振興費補助金（文化庁））
合計	306.1 百万円				

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

計画期間は令和7年度から令和11年度までの5年間とする。